

平成24年9月28日開催

石狩市教育委員会会議（9月定例会）資料

<協議事項>

- 1 教育委員会の点検・評価（平成23年度分）について（別冊）

<報告事項>

- 1 いじめに関する児童生徒調査（文部科学省緊急調査）結果について
・・・・・・・・P1～P2
- 2 第57回（平成24年度）石狩市民文化祭の開催について・・・・・・・・P3～P4
- 3 第13回（平成24年度）図書館まっりの開催について・・・・・・・・P5
- 4 通学路の交通安全の確保に係る緊急合同点検の実施状況について・・・・P6
- 5 平成24年度全国学力・学習状況調査について（非公開）

石 狩 市 教 育 委 員 会



教育委員会の点検・評価報告書
(平成23年度分)

原 案

平成24年 月
石狩市教育委員会

目 次

点検及び評価について

- 1 点検及び評価の対象について 1 P
- 2 点検及び評価の手法と方針について 1 P
- 3 学識経験者の知見の活用について 1 P

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況 2 P
 - (1) 教育委員会会議の状況 2 P
 - (2) 教育委員会会議での審議事項 2 P
 - (3) 教育委員会会議以外の活動状況 7 P
- 2 教育に関する事業の点検及び評価 9 P
 - (1) 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性 (一覧) 10 P
 - (2) 主要事業の内容 (一覧) 11 P

____ 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性 13 ~ 52 P

____ 平成 2 4 年度 (2 3 年度実施事業) 事業評価シート 53 ~ 112 P

点検及び評価に対する学識経験者による意見について P

資 料

- 資料 1 教育委員会委員名簿 P
- 資料 2 石狩市教育委員会外部評価委員会設置要綱 P

点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の改正により、平成20年4月より教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

石狩市教育委員会は、地教行法に基づき、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、平成23年度の教育委員会の活動状況及び主要な施策・事業について、点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ「教育委員会の点検・評価報告書（平成23年度分）」としてまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 点検及び評価の対象について

平成23年度の教育委員会の活動状況のほか、教育委員会において実施した施策・事業等を対象としています。

2 点検及び評価の手法と方針について

教育委員会会議の開催及び審議の状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、教育に関する事業を個別に評価し、課題を踏まえ、今後の改善に向けた方針を明らかにしています。

3 学識経験者の知見の活用について

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取組への活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から、点検及び評価に対する意見や助言をいただき、本報告書に付して報告します。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び石狩市教育委員会会議規則に基づき、教育長を含む5人の委員が、主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること、教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議しています。

それぞれの会議においては、事務局から付議された議案・報告案件及び協議事項・報告事項について、委員相互の入念な審議・協議・意見交換などを経て決定しています。

また、市民が教育行政に関心を持ていただけるよう、平成24年度より石狩市ホームページにて、会議録の公開を開始しています。

=====

平成22年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、石狩市の教育の一層の充実発展のために、今後も教育委員会の審議内容等の広報を充実するなど、市民が教育行政に関心を持ち、参加意識が高まるような工夫も期待したい旨、意見をいただいたところです。

=====

なお、平成22年4月にスタートした「新教育プラン」は、教育委員会の会議において協議・審議を重ね策定されたものであり、この計画の確実な推進を図るため、様々な教育課題や取組などについて、審議・協議並びに教育現場の視察や関係者との意見交換を重ねてきました。

(1) 教育委員会会議の状況

教育委員会会議については、石狩市教育委員会会議規則第2条第2項の規定に基づき、毎月25日前後の日程で定例会を開催、また同条第3項の規定に基づき、必要に応じて臨時会を開催しています。

平成23年度については、下記のとおり合計15回の会議を開催しました。

また、会議以外に事務局と施策に関する勉強会も随時実施しています。

定例会 12回（毎月1回）

臨時会 3回（6月1回・3月2回）

(2) 教育委員会会議での審議事項

教育委員会会議への付議案件は、石狩市教育委員会事務委任規則などに基づく議案等88件でしたが、その内訳は次の通りです。

石狩市教育委員会事務委任規則に基づく審議事項 53件

・議決案件 38件

・報告案件 3件

- ・承認案件 1 件
 - ・協議案件 11 件
- 同規則に規定されていない教育施策に関わる事業等の報告事項 35 件

付議案件一覧

日 時	付 議 案 件
23. 4. 25	(議案) ・石狩市奨学審議委員会委員の委嘱について ・中学校用教科用図書の共同採択の承認について (承認) (報告事項) ・東日本大震災被災地 (宮城県名取市) への支援について ・東日本大震災により被災した児童生徒の受入れ状況について ・平成 22 年度いじめ・不登校の状況について ・学校図書館等整備基本方針について ・平成 23 年度市内小中学校の児童生徒数・学級数について
23. 5. 20	(議案) ・石狩市立学校設置条例の一部改正について ・石狩市奨学審議委員会委員の委嘱について ・石狩市社会教育委員の委嘱について ・平成 23 年度奨学生の決定について ・異議申立てに対する決定について (協議事項) ・平成 23 年度教育行政執行方針について ・平成 23 年度一般会計補正予算 (第 2 号補正) について ・平成 23 年度石狩市教育委員会の点検・評価の実施について (報告事項) ・平成 23 年度市内小中学校の児童生徒数・学級数について ・平成 22 年度石狩市在住の青少年における不良行為・犯罪行為等について
23. 6. 2 (臨時会)	(議案) ・平成 23 年度教育行政執行方針について ・平成 23 年度一般会計補正予算 (第 2 号補正) について
23. 6. 28	(議案) ・石狩市学校給食センター運営委員の委嘱について ・石狩市立学校管理規則の一部改正について

日 時	付 議 案 件
23. 7. 26	(協議事項) ・平成 2 3 年度学校等訪問の実施について (報告事項) ・平成 2 2 年度社会教育施設等の利用状況について ・平成 2 3 年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について ・平成 2 3 年度情操教育プログラム事業について ・平成 2 2 年度学校給食費収納状況について ・いじめの把握のためのアンケート調査について (議案) ・招致外国青年就業規則の一部改正について ・教職員の懲戒処分の内申について (協議事項) ・教育委員会の点検・評価（平成 2 2 年度分）について (報告事項) ・石狩市外国語指導連絡協議会担当者会議の開催について ・あい風寺子屋事業の実施について ・石狩市教育委員会文化芸術支援制度要綱の一部改正について ・いじめ実態把握調査結果について ・「ジュニア・ライブラリアン養成プログラム」について ・科学の祭典 in 石狩（案）について
23. 8. 30	(議案) ・石狩市立学校施設使用料条例の一部改正について ・平成 2 3 年度一般会計補正予算（第 3 号補正）について ・平成 2 4 年度から使用する中学校用教科用図書の採択について ・石狩市学校の体育施設の開放に関する規則の一部改正について ・石狩市文化財保護審議会への諮問について ・教職員の処分について（報告） (協議事項) ・教育委員会の点検・評価（平成 2 2 年度分）について (報告事項) ・平成 2 3 年度石狩市教職員サマーセミナー実施報告について ・平成 2 3 年度「俳句のまち・いしかり」実施報告について
23. 9. 29	(議案) ・石狩市教育委員会委員長の選挙について ・石狩市教育委員会委員長職務代理者の指定について

日 時	付 議 案 件
23. 10. 25	・石狩市立学校管理規則の一部改正について ・教職員の処分の内申について (協議事項) ・教育委員会の点検・評価(平成22年度分)について (報告事項) ・平成23年度石狩市・恩納村中学生交流(派遣)事業について ・第56回(平成23年度)石狩市民文化祭の開催について (議案) ・石狩市教育委員会の点検・評価報告書(平成22年度分)について (報告事項) ・東日本大震災被災地(名取市)への支援について ・第12回(平成23年度)図書館まつりの開催について
23. 11. 22	(議案) ・教職員の処分について(報告) (協議事項) ・平成24年度教育委員会予算要求について (報告事項) ・高等学校生徒遠距離通学費等補助事業の延長及び拡充を求める要望について ・第56回(平成23年度)石狩市民文化祭の実施報告について ・平成24年石狩市成人式の開催について ・平成23年度蔵書点検結果について
23. 12. 20	(議案) ・平成23年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について ・石狩市文化財保護審議会からの中間答申について(報告) (報告事項) ・「聚富中学校の今後に関する保護者の意見を聴く会」実施報告について ・平成23年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について ・第12回石狩市民図書館まつりの実施報告について
24. 1. 31	(議案) ・教職員の処分の内申について (協議事項)

日 時	付 議 案 件
24. 2. 16	・「(仮称)厚田区の学校検討会」について (報告事項) ・平成23年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」実施報告について ・今後の学校給食の食材調達等について (議案) ・平成23年度一般会計補正予算(第6号補正)について ・平成24年度教育行政執行方針について ・平成24年度一般会計予算について ・石狩市民図書館条例の一部改正について (協議事項) ・聚富中学校の将来の方向性について (報告事項) ・いじめ実態把握調査結果について
24. 3. 14 (臨時会)	(議案) ・石狩市立小中学校の教職員人事異動に係る内申について
24. 3. 21 (臨時会)	(議案) ・教育委員会職員の人事異動について
24. 3. 28	(議案) ・石狩市教育委員会行政組織に関する規則の一部改正について ・石狩市教育委員会職員職名規則の一部改正について ・石狩市教育委員会事務専決規程の一部改正について ・石狩市スクールバス管理運営規程の一部改正について ・石狩市立学校管理規則の一部改正について ・石狩市民図書館条例施行規則の一部改正について ・石狩市民図書館協議会への諮問について ・教職員の処分の内申について (協議事項) ・平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査の結果分析について (報告事項) ・平成23年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の調査票を活用した石狩市における調査結果の状況について

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議の出席以外に教育委員会を代表した教育関係機関の会議や研修、関連行事への出席などの公務や教育現場への訪問・視察など実態把握を行っています。

また、教育委員会は、市長部局と独立した中立的・専門的な機関であります。効果的・効率的な行政運営を行うため、市長と教育委員の協議、意見交換などを積極的に行っています。

なお、関係する審議会などとの密接な連携も図っており、平成23年度においては石狩市民図書館協議会委員と意見交換を行い、学校図書館整備方針(平成23年3月策定)に基づく学校図書館整備の具体的な推進を図りました。今後も、地域の教育課題を市民、各種委員等と共有できるような場の充実に努めます。

=====

平成22年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、社会教育委員との意見交換等を継続するなど、地域の教育課題を市民と教育委員、社会教育委員等が共有できるような場の充実に期待する旨、意見をいただいたところです。なお、平成22年度においては、社会教育委員と意見交換を積極的に行い、「あい風寺子屋事業」などの取組などに活かされました。

=====

その他にも、教育委員間の打合せや事務局職員からの報告・相談への対応及び情報交換など、教育行政や教育委員会会議運営に関わる調整活動も行っています。

平成23年度の主な活動(教育長を除く)は、次のとおりです。

各種関係機関等への出席・意見交換や研修活動

北海道都市教育委員会連絡協議会、石狩管内教育委員会協議会の会議や研修会に出席し、文教施策に関わる審議や情報交換等を行っています。

また、市議会への出席や、校長会や各種審議会等との意見交換等を行い、市の教育行政推進に努めています。

- ・石狩管内教育委員会協議会
総会(4月) 部会(4、3月) 研修会(10月)
- ・市議会本会議 定例会(6、9、12、3月) 臨時会(4、5月)
- ・新任校長との交流研修会(6月)
- ・北海道都市教育委員会連絡協議会定例総会(8月)
- ・石狩管内教育委員会委員交流会(10月)
- ・石狩市民図書館協議会委員との意見交換会(11月)
- ・市長と教育委員の懇談(12月)
- ・市町村教育委員会新任委員研修会(2月)

教育現場の実態把握等(学校訪問・視察等)

入学式や卒業式のほか、実態把握を目的とした学校訪問、視察等を行っています。

また、情操教育プログラム、あい風寺子屋事業、学び交流センターなど、社会教育施設や各種事業を視察するなどして、実態把握に努めました。

- ・運動会・体育祭(6月)
- ・情操教育プログラム「おしゃべランド」事業視察(6月)

- ・紅南小学校、学び交流センター、北海道星置養護学校石狩紅葉山校舎視察（７月）
- ・厚田区教育関連施設視察（７月）
- ・北海道星置養護学校石狩紅葉山校舎・石狩市学び交流センター合同開所式（７月）
- ・浜益区教育関連施設視察（１０月）
- ・学校給食センター視察 厚田（１０月） 第１、第２（１２月）
- ・あい風寺子屋事業視察（１１月）
- ・いしかりっ子いきいきカルタ大会事業視察（１月）
- ・花川南小学校「放課後学習教室（退職教員等活用事業）」視察（２月）
- ・小中学校卒業式（３月）

各種行事・事業への参加等

市民スポーツまつり、ユネスコ協会事業、文化団体事業など市内のスポーツ・文化関係団体等の教育全般にかかる各種事業や、その他の事業等に参加し、広く自己研鑽に努めています。

- ・石狩ユネスコ協会創立３０周年記念式典（４月）
- ・単Ｐ会長・市教委交流会（６月）
- ・石狩まるごとフェスタ２０１１（８月）
- ・砕氷艦しらせ入港歓迎式等（９月）
- ・市民スポーツまつり（９月）
- ・石狩海岸の自然と保全～保護と活用～（１０月）
- ・ユネスコ絵画展表彰式（１０月）
- ・科学の祭典 in 石狩（１０月）
- ・石狩市社会福祉大会（１１月）
- ・青年主張大会（２月）
- ・東日本大震災追悼「忘れない！３.１１」（３月）
- ・石狩大谷子供劇団「碧い海」（３月）

その他の教育行政の運営に関する諸活動

- ・教育関連機関等への要請、調整活動等
- ・教育行政に係る各種団体等との意見交換活動等

市民、団体等との意見交換の場への参加

上記のような多様な公務活動のほか、市民への様々な情報発信、市民や関係団体との情報、意見交換を求めており、体育協会、文化協会、青年会議所など各種団体の会合や行事にも積極的に参加しているほか、委員自らが自主的な活動を通じて、教育現場の実態把握や、自己研鑽にも努めています。

- ・石狩市新年交礼会（１月）
- ・石狩市文化協会新年交流会（１月）
- ・石狩青年会議所新春交礼会（１月）
- ・いしかり市民カレッジ開校３周年記念交流会（２月）
- ・その他各種団体の会合や行事など

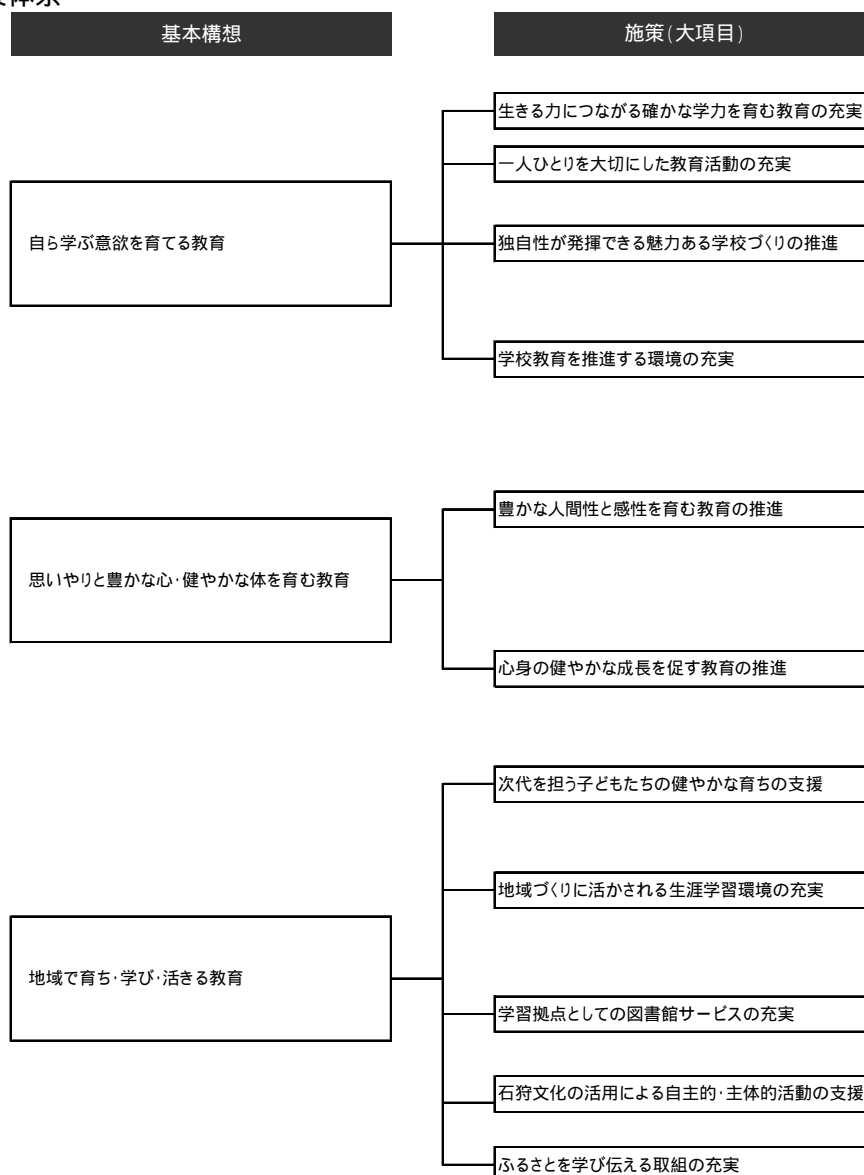
2 教育に関する事業の点検及び評価

教育に関する事業の点検・評価について、石狩市教育委員会では、教育プランの施策体系に基づく施策（大項目）ごとに取組状況を点検し、分析・評価を行っております。また、施策ごとに「石狩市教育委員会外部評価委員会」から、評価・意見・助言などをいただくこととしております。

また、本市の平成23年度実施事業の評価は、各課による1次評価の後、評価対象事業の一部について石狩市行政評価委員会による外部評価をいただき、評価対象事業の全部についてパブリックコメントによる意見等を踏まえて、2次評価（最終評価）が行われております。本市の教育に関する事業については、事業評価を点検・評価の一環と位置付けて行っているところであり、本報告書では、平成23年度の評価対象事業54事業の内、主要な30事業を教育プランの施策体系と対応するよう抽出し、掲載しております。

全事業のうち、評価対象外事業（法定受託事務や既に廃止された事業など、評価対象として対応でない事業）を除いたもの。

○教育プランの施策体系



(1) 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性 (一覧)

石狩市教育委員会では、教育プランの施策体系に基づく施策（大項目）ごとに取組状況を点検し、分析・評価を行い、今後の方向性を検討しております。

施 策 (大 項 目)	詳 細 ページ
1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実	13
2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実	16
3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進	18
4 学校教育を推進する環境の充実	21
5 豊かな人間性と感性を育む教育の推進	25
6 心身の健やかな成長を促す教育の推進	32
7 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援	37
8 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実	40
9 学習拠点としての図書館サービスの充実	44
10 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援	47
11 ふるさとを学び伝える取組の充実	50

評価結果は 1 3 ページから 5 2 ページのとおりです。表の「ページ」に該当する施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性を参照してください。

(2) 主要事業の内容 (一覧)

平成 2 3 年度の教育に関する事業のうち、事業評価を行った主要な事業は次のとおりです。

事業名	新規・継続	詳細ページ
1 学力向上推進事業	継続	53
2 外部指導者活用事業	継続	55
3 英語指導助手招致事業	継続	57
4 子どもの読書推進事業	継続	59
5 読書・学習支援事業	継続	61
6 特別支援教育運営事業	継続	63
7 スクールカウンセラー設置事業	継続	65
8 不登校児童生徒支援事業	継続	67
9 奨励プログラム推進事業	継続	69
10 小中学校施設整備事業	継続	71
11 小中学校教育用コンピュータ整備事業	継続	73
12 教育情報化整備事業	継続	75
13 学校給食事業	継続	77
14 奨学金支給事業	継続	79
15 芸術鑑賞会開催事業	継続	81
16 沖縄県恩納村交流事業	継続	83
17 生徒指導上の諸問題対策事業	継続	85
18 体力・運動能力向上推進事業	継続	87

事業名	新規・継続	詳細ページ
19 子どもへの暴力防止プログラム事業	継続	89
20 家庭教育支援事業	新規	91
21 石狩市PTA連合会運営支援事業	継続	93
22 生涯学習講座開催事業	継続	95
23 公民館管理運営事業	継続	97
24 図書館運営事業	継続	99
25 石狩市民文化祭開催事業	継続	101
26 石狩市文化協会運営支援事業	継続	103
27 地域創造アトリエ事業	継続	105
28 いしかり砂丘の風資料館管理運営事業	継続	107
29 厚田資料室管理運営事業	継続	109
30 はまます郷土資料館管理運営事業	継続	111

評価結果は53ページから112ページのとおりです。表の「ページ」に該当する事業評価シートを参照してください。

新規・継続の欄について、新規とは、当該年度において新たに取り組む事業として、本市の事業評価において事業評価シートが新規に作成された事業であることを表しています。また、継続とは、当該年度以前に既に取り組んでいる事業であり、当該年度以前に事業評価シートが作成されている事業であることを表しています。

教育プラン基本構想 重点テーマ１ 自ら学ぶ意欲を育てる教育

施策（大項目）１ 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

●大項目のねらい

子どもたちに自ら学び自ら考え行動する力などの「確かな学力」を育むため、創意ある教育課程の編成・実施、学習指導の工夫・改善等を通じて、子どもたちの学ぶ意欲を高め、「わかる授業」を目指した積極的な授業・指導内容の改善や「楽しい学校」づくりに向けた、学校の主体的な教育活動を推進します。

●平成２３年度の実施状況

確かな学力を育む教育活動の推進

- 各学校では、全国学力・学習状況調査やＣＲＴ標準学力検査の結果を踏まえ、学校改善プランの見直しを行うとともに、朝読書や授業時間以外の補充的指導を実施したほか、家庭学習習慣や望ましい生活習慣の定着を図るため、家庭へ働きかけをしました。
- 市教委では、全国学力・学習状況調査やＣＲＴ標準学力検査結果の分析や各学校の取組に関する指導・助言・相談を実施したほか、特に市小中学校学力向上対策拡大チームを設置し、授業内容の改善、教職員の意識改革、学校自らの積極的な学校改善について議論を重ね、学校に改善を促しました。
- 学校への人的支援としては、ＳＡＴ（大学生などによる学習指導補助）配置のほか、学力向上サポーター（元教職員による補助指導）を、南線小学校、紅南小学校、厚田小学校、花川中学校に配置し、国語、算数・数学のＴＴや教材づくりなどの支援を行いました。
- よりきめ細やかな学習支援のモデル事業としては、退職教員を非常勤補助教員として配置する「エキスパート・サポーター事業」を双葉小学校で実施し、２名のエキスパート・サポーターがシフトを組み、全学級の算数の授業を中心に、ＴＴ指導、習熟度別指導、補充指導を行いました。
- 道教委の教職員加配や道外部指導者活用事業などを活用し、ＴＴや放課後指導者として人材を派遣しました。

○外部指導者及び加配教員配置数

区	H21	H22	H23
ＳＡＴ	50名（１校）	30名（10校）	41名（10校）
学力向上サポーター （21年度 スーパーＳＡＴ）	4名（４校） 延べ約 1,400 時間	4名（４校） 延べ 1,824 時間	4名（４校） 延べ 981 時間
エキスパート・サポーター	-	2名（１校）	2名（１校）
加配教員	25名(14校)	32名（14）	36名(14校)
その他道費外部指導者	4名（３校）	10名（10校）	12名(11校)

- 総務省が実施する「フューチャースクール推進事業」については、全国２ブロック 10 校の対象校に紅南小学校が選定（平成 22 年度から 3 年間）され、タブレットＰＣ、電子黒板等の機器整備、校内無線ＬＡＮの整備がされるとともに、ＩＣＴ協働教育の実践が図られています。また、市独自事業として、浜益小学校においてもタブレットＰＣ、電子黒板、無線ＬＡＮ等の整備を行い、ＩＣＴ活用事業を実施しています。
- 新学習指導要領本格実施に対応するため、平成 23 年度に小学校（５，６年生）専属のＡＬＴを招致しました。
- 学校司書については、双葉小学校に続いて南線小学校に司書を配置し、市民図書館とのオンラインネットワークの活用などにより、蔵書の活用、読書指導、調べ学習等の授業支援や教員支援などを行いました。また、平成 22 年度に策定した学校図書館等整備方針に基づき、市内小中学校図書館の現状を把握し、古くなった蔵書の廃棄と魅力的な蔵書の整備に努めました。

- ・ 司書未配置校については、計画的な図書の購入と巡回文庫（ブックンボックス）により、子ども達が本に触れる機会の増加を図るとともに、学校図書館活性化事業として、八幡小学校で分館職員による読み聞かせ、緑苑台小学校図書館の校内移転など、使いやすい学校図書館作りを進めました。

○巡回文庫（ブックンボックス）の状況

区 分	H21	H22	H2
購入冊数	二	500冊	520冊
実施学校数	小 12 中 2	小 12 中 1	小 12 中 3
実施学級数	小 89 中 6	小 117 中 12	小 138 中 19

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

学力向上推進事業・外部指導者活用事業・英語指導助手招致事業・
子どもの読書推進事業・読書・学習支援事業・家庭教育支援事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
CRT標準学力検査において、「全観点評定1」の児童の割合(小学校5年国語)	%	-	11	14	↘
同上、生徒の割合(中学校2年国語)	%	-	2	1	↘
CRT標準学力検査において、「全観点評定1」の児童の割合(小学校5年算数)	%	-	22	28	↘
同上、生徒の割合(中学校2年数学)	%	-	14	7	↘

全観点評定では、区分1とは、「努力を要する」、区分2は「概ね満足」、区分3は「十分満足」を指します。

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H19	H21	H23	H26
国の図書整備指針による学校図書館図書標準が達成されている小学校数	校	5	3	2	↗
国の図書整備指針による学校図書館図書標準が達成されている中学校数	校	1	3	3	↗

実績値覧 H21 については、調査が隔年で実施されていることから、平成21年度調査の数値を記載しました。

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 確かな学力の定着に向けた各学校の取組や市教委の支援は、継続的な実施が必要であることから、平成 24 年度以降も学力向上アクションプランや学校改善プランを通して、積極的に推進します。特に、分かりやすい授業づくりや、授業と補充的指導・家庭学習を連続させることにより、学習効果を高めるよう、各学校に働きかけ、道教委で作成しているチャレンジテストの活用などに積極的に取り組むとともに、少人数指導や習熟度別指導の推進に取り組めます。
また、基礎基本を活用する力を育む必要がありますので、新聞や学校図書などを活用して、調べ学習と発表などを組み合わせた授業などの取り組みを推進します。
- ・ 道教委は、平成 26 年度の全国学力・学習状況調査までに学力を全国平均以上にすることを大きな目標として掲げ、その実現に向けてオール北海道で目指す目標へのロードマップを設定して取り組んでいることから、市教委においても、積極的に学校へ働きかけます。
- ・ 家庭学習習慣の定着のためには、基本的な生活習慣の確立が必要であることから、今後、「生活リズムチェックシート」の活用による生活習慣の定着に向けた啓発の取組を、市 P T A 連合会と連携しながら推進します。
また、ボランティアや退職教員など地域の教育力を活用し、補充学習等による基礎学力の向上と学習習慣の定着へ向けて、学校支援地域本部事業やあい風寺子屋事業を推進します。
- ・ 学力向上対策拡大チームの検討結果や道外視察研修報告では、ノート指導の重要性や I C T 活用の有効性について指摘されていますので、今後ノート指導を効果的に行う実践例の紹介や、I C T 活用の効果的な機器として授業に即活用できる書画カメラの整備を推進します。
- ・ 学校 I C T については、フューチャースクール推進事業（総務省、紅南小学校、H22～H24）の検証を踏まえ、平成 23、24 年度に、「教育情報化推進検討委員会」を開催し、本市の方向性（機器・人員整備等）を定めます。
- ・ 外部指導者については、より安定的な活用や人材確保面の課題等もありますので、今後、教員免許を持つ人材などを中心に学校の改善プラン実践に連動した人材の派遣を進めます。
- ・ 小学校専属の A L T については、平成 23 年度に招致し新学習指導要領本格実施に対応しましたが、平成 24 年度においては、国際社会で必要とされる能力を持つ人材育成のため、小学校 3・4 学年に生きた英語に触れる学習の場を多く取り入れることとし、A L T の 1 名増員を図ります。

=====

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員から、今後も小学校専属の A L T の招致など様々な学校支援体制の充実を期待したい旨、意見をいただいたところです。

=====

- ・ 学校図書館については、古くなった図書の廃棄を各校で進めたことで、蔵書数が減っていることから、蔵書の充実を図るとともに、今後調べ学習用の資料を中心に購入するほか、巡回文庫（ブックンボックス）の活用を更に推進します。
また、平成 24 年度においては、双葉小・南線小学校に続いて、緑苑台小学校に司書を配置するとともに、八幡小学校に分館職員（司書）を週 2 回派遣、厚田分館と厚田小学校図書館を統合して地域開放するなど、蔵書の充実や学校司書の積極的な配置など、学校図書館の計画的整備に取り組めます。
学校図書館ボランティアについては、各校の状況を把握し、学校図書館機能活性化の検討を進めます。

施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実

●大項目のねらい

障がいのあるなしにかかわらず、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うため、石狩市教育支援センターを設置するとともに、特別支援教育の取組の環境整備を推進します。

●平成23年度の取組状況

特別支援教育の推進

- ・石狩市教育支援センターは、開設2年目にあたり、特別支援教育の振興、不登校・いじめ対応などに関わるスタッフの連携を図り、児童生徒・保護者及び教職員への相談・支援体制を充実し、よりきめ細かい対応に努めました。
- ・特別支援教育の推進にあたっては、市内小中学校における特別支援教育コーディネーターの配置や学校の実態に合わせた地域コーディネーター（特別支援教育担当）、特別支援教育支援員等の配置などの体制を整備し、特別支援学校との連携を図りながら、支援の必要な児童生徒とその保護者の支援に努めました。
- ・特別支援教育支援員については、平成23年度から10名の増員を図り、21名体制にしました。

○特別支援教育関連スタッフの状況

	H21	H22	H23
地域コーディネーター（特別支援教育担当）	7名	6名 2	5名 4
特別支援教育支援員	8名	11名 3	21名 5
市特別支援教育コーディネーター	5名 1	5名 1	5名 1

- 1 小中教諭3、言語聴覚士1、保育士1
- 2 花川小1、南線小2、花川南小1、紅南小1、教育支援センター1
- 3 石狩小1、花川小1、花川南小3、紅南小3、緑苑台小3
- 4 花川小1、南線小1、紅南小1、双葉小1、教育支援センター1
- 5 石狩小1、花川小2、南線小5名、花川南小4、紅南小4、緑苑台小3、双葉小2

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

特別支援教育運営事業、スクールカウンセラー設置事業、不登校児童生徒支援事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市主催教職員研修において、特別支援教育関連講座に参加した小中学校数	校	16	20	19	21

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 教育支援センター設置によるスタッフの集中化や連携体制の強化により、きめ細やかな支援を図りましたが、スタッフ数は必ずしも十分でないことから、今後は、業務分担等の工夫を図りながら支援をします。
特別支援教育支援員の配置については、平成 23 年度から 10 名の増員を図り、21 名体制にしましたが、今後は、各小学校（1 学年）における支援の必要な児童を有する学級の支援に極めて有効であり、地域コーディネーター（特別支援教育担当）の配置もあわせて検討し、より学校事情に合った配置が可能となるよう取り組みます。

=====

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、今後も特別支援教育支援員の配置などの効果を検証しながら、更なる取組の充実を期待する旨、意見をいただいたところです。

=====

- ・ 身近な地域で障がいのある子ども一人ひとりの教育ニーズに応じた、専門性の高い指導・支援が受けられる体制が求められていた中で、平成 23 年度に星置養護学校石狩紅葉山校舎が開設されたことは、児童生徒や保護者をはじめ、関係者の念願が実現しました。
今後は、障がいのある子どもが、地域の中で幼児期から就労までの一貫した支援を受けられるよう、小学部・中学部に加え高等部の設置が強く望まれていますので、引き続きその設置に向けて、関係団体等と協議しながら取り組みます。

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進

●大項目のねらい

現在の学校教育が抱える課題の多くは、学校のみならず地域社会と一体となって解決することが求められています。そのような課題に対して、教職員が一体となり、地域とともに魅力ある学校づくりを進める学校独自の取組の充実を推進します。

●平成23年度の取組状況

教職員の主体的な研究・研修活動の推進

- 石狩市教職員サマーセミナーについては、7月26日～29日、8月2日までの5日間の日程で実施し、計10講座で延べ364人の教職員が参加しました。（実人数は309人の参加）
例年実施している特別支援教育に関する講座に加え、平成23年度から小学校において、新学習指導要領がスタートしたことに伴う外国語活動講座のほか、学校図書館の有効活用に関する講座など、その充実に努めました。
なお、実施にあたっては、東日本大震災からの教訓、今日におけるケータイとネット事情など日々変化している出来事をテーマとした講座、実際に学力日本一の秋田を訪問し、秋田の教育から感じたものをテーマとした講座（学力向上策）のほか、先生のためのコーチングスキル（児童生徒との双方向のコミュニケーション）など、現場で実践しやすいものを重点的に選定し、ミニトマト収穫体験（食育）や地元の石狩湾新港を学ぶフィールドワークなど参加しやすく、総合学習にも生かせるよう、参加しやすいテーマの設定に工夫を凝らしました。
また、新たに、1月10日に「ウインターセミナー」を開催し、教員歴2年から9年の職員を対象に、よりよい学級経営を行うために必要な専門的な知識や実践力を養うための研修を小学校、中学校別を実施し、1講座55人の教員が参加しました。
- ICTに関連しましては、9月7日に、実物投影機の授業における有効な活用方法について研修を実施し、67人の教員が参加しました。
- 石狩市教育振興会は、研究集会の開催・各校通知票及び評価方法検討・新教育課程編成に向けての交流・進路指導の研究・小学校社会科副読本の研究・創意工夫展の開催・生徒指導の研究・教育機器の研究・へき地教育の研究・中文連行事の開催・市内小学校文集製作・小中学校図工作品展開催などの活動を行っており、その経費の一部を助成しました。

教育課題に積極的に挑戦する学校づくりの推進

- 学校改善プランの作成・改訂・実践を通し、学校運営の改善を推進するとともに、学校自己評価・関係者評価などにおいても学校運営を検証しました。
また、教育委員会によるヒアリングでも、実施状況を確認するとともに、積極的な学校運営の改善を促しました。
- 各学校で特色ある教育活動に加え、総合的な学習の時間などで環境教育・人権教育・平和教育・国際理解教育を実践できるよう「学校奨励プログラム」に位置づけ、その活動費を交付するなど、取組を推進しました。（環境教育 18校、人権教育 10校、平和教育 8校、国際理解教育 14校）
- 幼・保・小・中連携教育については、平成18年度から中学校区ごとに連携した取組を進めていますが、平成23年度については、重点テーマとして「進学への不安を取り除き、早く学校生活に慣れさせるための取組」（中1ギャップ対策）「園児が学校生活への順応をスムーズに図られるための取組」（小1プロブレム対応）及び「学びの連続を高め、学力の向上を促進させるための取組」（学力向上対策）を推進しました。モデル地区の設定なども進め、小中間でのCRT標準学力検査結果情報の共有、参観日交流、小学生への部活動公開、中学校教員の小学校への出前授業など、様々な取組を行いました。

- ・ 学校間の情報交換の場として、学校教育推進会議（４月）及び連携教育交流会（１２月）を開催しました。

地域とともに歩む学校づくりの推進

- ・ 学校評価結果や教育活動の状況については、保護者などに広く情報提供するために学校ホームページの開設を推進し、平成 22 年度中に全校で学校ホームページが開設され、平成 23 年度は継続して更新の指導を行いました。
- ・ 学校と家庭や地域の団体などが連携し、地域のボランティアを中心に登下校時などにパトロールや見守りなどを行う「スクールガード」「声かけ運動」の活動などを通して、地域全体で学校安全に取り組む体制を整備し、子どもたちが安心して生活できる地域づくりを図りました。
(平成 23 年度 実施学校数 11 校、ボランティア数 600 名程度)
- ・ 地域住民の学校教育活動への参加の取組としては、地域 S A T (10 名)、中学校部活動外部指導者(6 名)、学校支援地域ボランティア(延べ 419 名)の活動が行われました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
奨励プログラム推進事業・外部指導者活用事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
小中学校全教職員のうち、市主催の教職員研修に参加した割合	%	71	71	75	80

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「奨励プログラム」に取り組んだ小中学校数	校	12	19	20	21

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供している小学校の割合	%	50.0	100	100	100
教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供している中学校の割合	%	37.5	100	100	100

【分析・評価及び今後の方向性】

- 石狩市教職員サマーセミナーについては、平成 23 年度では、従来の特別支援教育に関する講座に加え、平成 23 年度から小学校において新学習指導要領がスタートしたことに伴い、外国語活動や学校図書館の有効活用に関する講座の充実を図りましたが、今後においては、引き続き災害への的確な対応、今日におけるケータイとネット事情など日々変化している出来事をテーマとした講座、ＩＣＴ機器の授業での利活用方法、先生のためのコーチングスキル（児童生徒との双方向のコミュニケーション）など、今日的なテーマを内容とする研修の充実に取り組みます。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、研修参加率の向上を目指し、受講者の意見を聴くなど、事業の分析評価を行い、次年度の事業計画に反映させるなどの取組を今後も継続していくことを期待する旨、意見をいただいたところです。

- 奨励プログラムについては、今後も限られた総合学習の時間の中で学校の特色ある教育活動とのバランスをとりつつ、交付金の配分などを考慮しながら全校で積極的な取組が図られるよう推進します。
- 幼・保・小・中連携教育の推進については、中学校区ごとの独自の取組に加え、市教委が提示した 3 つの重点テーマ（「進学への不安を取り除き、早く学校生活に慣れさせるための取組」、「園児が学校生活への順応をスムーズに図られるための取組」、「学びの連続を高め、学力の向上を促進させるための取組」）を意識した活動が進められましたが、平成 24 年度においては、重点テーマについて、より学力向上に資する取組として、「中学校教員による出前授業」「ＣＲＴ結果等の学力情報交流」「入学前の丁寧な引き継ぎ」及び「春休み学習帳（中学入学準備）」を推進します。
- 学校間の情報交換の場については、学校教育推進会議などの各種会議のほか、学校ホームページの情報活用も含め、継続的に推進します。
- 学校ホームページの有効活用のため、必要な情報を迅速かつ的確に提供するよう、平成 24 年度より最低月 1 回ホームページを更新することを目標とし、学校自己評価シートに位置付けます。
- 「スクールガード」・「声かけ運動」については、登下校時など学校や子どもたちだけで身を守ることに限界もあり、地域の子どもたちは地域で育て、守り、子どもたちが安心して生活できる環境を整えることが必要です。不審者の発生件数にあまり変化はないものの、大きな事件が起きていないことから、地域の人たちによる見守りが定着してきた成果とも分析されます。一方、学校区によって活動に温度差があることから、市内全域で学校と地域が一体となって活動を行っていきけるよう働きかけます。
- 地元にある藤女子大学の学生や地域の方々による SAT 活動、読み聞かせ活動、中学校部活動指導などについては地域の教育力を活用した有効的な手段であることから、平成 24 年度以降も積極的に展開します。学校支援地域本部事業にかかる学校支援地域ボランティアは、学校ニーズの掘り起こしと地域との連携が深められたことにより増加しており、これまで花川北中学校区で行われてきた学校支援ボランティア活動、花川南小学校で実施したあい風寺子屋事業や、放課後こども教室を活用した放課後の学習支援などの取組に、保護者の方々から大きな期待が寄せられていることから、今後更なる充実に向けて取り組みます。

施策（大項目）4 学校教育を推進する環境の充実

●大項目のねらい

児童生徒が多く時間を過ごす学校の環境は、子どもの健全な成長にとって大きな影響を与えます。少子高齢化等の影響により、学校を取り巻く環境が大きく変化してきていると同時に、学校の安全安心の重要性がクローズアップされており、これらに対応する必要があります。そのような中、子どもたちが安心して学べるような良好な環境の中で学習することができるよう、学校教育にかかわる環境整備を進めます。

●平成23年度の取組状況

学校施設・設備の整備・充実

- 学校施設改修については、花川小・石狩小・石狩中・花川南中の玄関のオートロック化、地デジ化に伴う紅南小・花川中の電波障害対策アンテナ等の撤去、花川南小プールの濾過装置改修、浜益中移転に伴うテレビ・LAN配線・グラウンド整備等の改修などを行い、教育環境の整備を図りました。
- 地域の熱供給事業廃止に伴う花川中・花川北中・双葉小の暖房設備改修、緑苑台小の増築、花川北中の大規模改修工事や、石狩中屋体の大規模改修に係る実施設計を行いました。
- 新学習指導要領の実施に向け、中学校保健体育の武道やソフトボールの用具など、教具教材の整備を図りました。
- 石狩中の教育用パソコンの更新を行うとともに、平成22年度に引き続き、教職員用パソコン（不足分）を配置しました。
- 車両更新スケジュールに基づき、スクールバス（大型66人乗り）1台を更新しました。

安全な学校づくりを目指した環境の整備

- 耐震補強工事は、厚田小屋体・浜益小屋体・花川北中校舎・屋体を実施したほか、また、石狩中屋体の耐震化及び校舎棟の非常用階段改修に係る実施設計を行いました。
- 教職員用パソコンの整備などを受け、学校情報セキュリティ委員会などを中心に、各学校における学校情報機器セキュリティマニュアルの適切な運用を推進しました。
- 道教委が示した「学校における危機管理の手引（改訂版）」や「学校安全推進資料」などを参考に、緊急対応（危機管理）マニュアルの見直し、避難経路の再チェックを全校で行いました。
3.11 東日本大震災により、新たに津波に対する避難訓練を実施した学校は、小学校では13校中9校、中学校では8校中5校でした。
なお、不審者対応訓練は、中学校では減少傾向です。

就学に関する経済的な支援の充実

- 児童生徒が安心して学習活動ができるよう、各種制度に基づき、要保護・準要保護就学援助（1,474人）・奨学金（50人）・特別支援教育就学奨励金（61人）を支給し、児童生徒の保護者に対する経済的支援を行いました。

安全・安心な学校給食の充実

- 給食用の温食缶等の購入など食器具の充実を図りました。

- 給食施設の改修等については、第2給食センターでは、手洗器の修繕や、物品庫・風除室を改修し、厚田給食センターでは、調理室床フロアを修繕するなど、衛生的な調理環境の整備を図りました。
また、第1給食センターでは、食品の安全確保と作業効率を高めるため、冷蔵庫・冷凍庫を更新しました。
- 地産地消等については、9、10月に石狩でとれる農産物を多く使用した給食メニューを取り入れる「石狩デー」を実施したほか、厚田産たこを使った「厚田たこかま揚げ」や、しそを使い「厚田しそプレート」、石狩産小麦で「うどん」を提供するなど、地元の農水産物を使った給食メニューの充実を図りました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

小中学校施設整備事業・小中学校教育用コンピュータ整備事業・教育情報化整備事業・学校給食事業・奨学金支給事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H19	H22	H23	H26
小中学校の教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	人	7.7	7.8	7.8	3.6

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H19	H22	H23	H26
小中学校の職員用コンピュータ1台当たりの職員数	人	19.8	1.1	1.0	1.0

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H21	H22	H23	H26
耐震補強が未完了な小中学校数 (耐震診断の結果、耐震補強が必要と判断された学校数の内、耐震補強工事未完了の学校数)	校	4	6	4	0

平成21年度については平成21年12月末現在、平成22年度以降については各年度末の数値を記載しました。

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
緊急対応マニュアルの作成を実施している小学校の割合	%	42.9	100	100	100
防災対応訓練を実施している小学校の割合	%		100	100	
不審者対応訓練を実施している小学校の割合	%		76.9	84.0	
緊急対応マニュアルの作成を実施している中学校の割合	%	0.0	100	100	100
防災対応訓練を実施している中学校の割合	%		100	100	
不審者対応訓練を実施している中学校の割合	%		62.5	50.0	

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
学校情報機器セキュリティマニュアルを運用している小中学校の割合	%	0	100	100	100

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
子育てに関し経済的に不安に思う割合	%	72.4	72.0	68.4	↘

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H19	H22	H23	H26
学校給食における石狩産食材の使用状況(米・野菜の全使用量に対する地場産数量の割合)	%	38.7	40.4	45.7	45

【分析・評価及び今後の方向性】

- 学校施設の耐震化については、文部科学省の定める「公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針」に基づき、平成 27 年度末までのできるだけ早い時期に完了できるよう、引き続き計画的に取り組めます。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、防災対策をはじめとした安全な学校づくりに向け、学校施設の耐震化を、今後とも計画的に進めることを期待する旨、意見をいただいたところです。

- 厚田区の良い教育環境づくりを進めるため、厚田区の学校のあり方及び聚富中学校の複式化問題について、地域の理解を深め今後の方向性を見出すよう、検討会の開催や意見交換会を開催します。

- ・ スクールバスについては、通学が困難な地域の遠距離通学児童・生徒の支援として円滑かつ安全な運行体制を確保するため、計画的な更新が必要なことから、平成 24 年度についてもマイクロバス 1 台を更新します。
- ・ 防災に関する学習や避難訓練については、子どもたちが「生きる力」を身につけるため、大変重要なことから、各校の緊急対応（危機管理）マニュアルの見直しのほか、津波を含む災害発生時の避難経路や緊急時の対応の確認などについて、迅速に取り組みます。

=====

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、防災対策をはじめとした安全な学校づくりに向け、緊急時の対応マニュアルが着実に実施されることを期待する旨、意見をいただいたところです。

=====

- ・ 就学援助については、検討の結果、平成 24 年度から新たに P T A 会費を援助項目に追加できるよう取り組みます。
- ・ 学校給食については、東日本震災後、食材の放射能汚染が懸念される中、安全性を確保するため地元石狩産、道内産などを中心に納入業者の協力を得ながら調達を行ってききましたが、今後は、1 年を通して地元産が使用できるよう関係機関の協力を得て、より一層地産地消を図り、安全・安心な給食の提供に努めます。

教育プラン基本構想 重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育

施策（大項目）5 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

●大項目のねらい

「確かな学力」や「健やかな体」とあわせ、「豊かな心」を育むにあたり、その出発点となる家庭の役割の重要性を市民全体でしっかり理解し、市民ぐるみの取組が進められるよう、体制の整備を進めます。

学校においても「心の教育」、「情操教育」、「豊かな感性」、「コミュニケーション能力」を育む教育活動を推進するとともに、いじめ等の問題行動・不登校などに対し、一人ひとりを大切にした支援を行う体制の充実を図ります。

また、子どもが言葉を身につけ、感性を磨き、表現力を高めるために欠くことのできない読書活動を推進するため、すべての子どもがあらゆる機会と場において、本に興味、関心を持ち、読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図ります。

●平成23年度の実施状況

豊かな人間性を育む教育活動の推進

- 市内小中学生を対象に、音楽朗読劇や幅広い音楽ジャンルの鑑賞、演奏体験などの機会を提供する情操教育プログラムを実施しました。

○情操教育プログラムの実施状況

区分(対象)	実施校(実施日)	内 容
スタート プログラム (全小学校)	全小学校 (6/21,6/23,6/24,6/29, 7/1)	情操を育む事業として、高い芸術性と臨場感あふれた本市オリジナルの参加体験型プログラム「おしゃべランド」を、アートウォームで開催しました。 音楽朗読劇のほかに、ものの見方の視点を変えていくことの大切さを伝える「くるりんぱ」や、世界の教育環境に恵まれない子どもたちの存在を学ぶ、ユネスコ世界寺子屋運動のお話など、「おしゃべランド」ならではの世界を子どもたちに提供しました。
セカンド プログラム (中学校1年)	花川南中学校 (3/21)	試行実施している“The music”では、中学生が即興（アドリブ）掛け合いなどの特長を持つ「ジャズ音楽」を鑑賞するとともに、演奏者とのコラボレーションによる、「パーカッションの演奏体験（セッション）」では、コミュニケーション能力の大切さや、会場全体の一体感を共有し、「その場で、その瞬間に生まれるジャズ音楽」の素晴らしさ、感動を体験する機会を提供しました。
あい風コンサート (小学校全学年)	7校 1 (5/10,7/6,8/22,8/30, 9/1,10/5,11/11)	子どもたちが様々な楽器・ジャンルによる生の演奏を鑑賞するとともに、楽器の構造や由来、歴史等を学ぶ機会を、保護者・地域住民も参加できる方式で提供しました。
美術館へ行こう (中学校1年)	5校 2 (6/7,9/17,10/24,10/25, 10/31,12/8,12/9,12/12)	思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育の関連事業として、市内唯一の美術館である石狩美術館において、貴重な美術・芸術作品を鑑賞する機会を提供しました。

1 望来小、生振小、石狩小、八幡小、厚田小、聚富小中、浜益小

2 石狩中、花川中、花川南中、樽川中、浜益中

- 道徳教育については、各学校の道徳教育推進教師などが中心となり、8割以上の学校で「心のノート」が活用されたとともに、道徳授業を保護者に公開するなど、その充実を図りました。

- 子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実を図る取組として、情操教育プログラムに加え、札幌広域圏組合が行うK i t a r aジュニアコンサート（主に小学 6 年生対象）に 8 校が参加したほか、「俳句のまち - いしかり事業」では、子どもの部（市内小中学生対象）で 2,030 作品の応募があり、子どもたちが文化芸術に触れる機会となりました。また、石狩ユネスコ協会の「わたしの町のたからもの絵画展」への参加についても奨励しました。

○ 関係事業の実施状況

事業名	参加者数等					
	H21		H22		H23	
札幌広域圏組合ジュニアコンサート（H23.6.28）	小 8 校	492 名	小 11 校	432 名	小 8 校	279 名
「俳句のまち - いしかり事業」	小 9 校	641 名	小 9 校	902 名	小 13 校	1,339 名
子どもの部（H23.5～7 月）	中 6 校	302 名	中 6 校	369 名	中 8 校	691 名

札幌広域圏組合
札幌市・江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・当別町・新篠津村の石狩管内 8 市町村によって構成される特別地方公共団体で、共同ソフト事業を中心に、圏域にまたがる政策推進に取り組んでいます。

- 【18 ページの再掲】各学校で特色ある教育活動に加え、総合的な学習の時間などで環境教育・人権教育・平和教育・国際理解教育を実践できるよう「学校奨励プログラム」に位置づけ、その活動費を交付するなど、取組を推進しました。
（環境教育 18 校、人権教育 10 校、平和教育 8 校、国際理解教育 14 校）
- 沖縄県恩納村交流事業（平成 3 年より開始し、隔年訪問は 11 回目）では、10 月に石狩の中学生 16 名が恩納村を訪れ、安富祖小中学校の生徒と交流（文化交流、学校給食体験など）や珊瑚植え付け体験、民泊などを行いました。
- 職業体験学習では、中学校 8 校の生徒延べ 723 名が、市内の事業所などで職業体験学習をしました。

○ 平成 23 年度職業体験学習の実施状況

学校名	実施学年	人数	実施日	日数	備 考
石狩中	2 年	29	10 月 17 日～18 日	2	11 事業所
花川中	3 年	133	8 月 24 日～25 日	2	30 事業所
花川南中	2 年	95	10 月 19 日	1	34 事業所（新規 3）
花川北中	2 年	95	10 月 25 日	1	22 事業所 2 事業所
	特支	8	11 月 10 日～11 日	2	
樽川中	2 年	164	10 月 13 日～14 日	2	43 事業所
	3 年	143	8 月 22 日～23 日	2	
厚田中	2 年	7	7 月 14 日～15 日	2	7 事業所
	3 年	9	7 月 14 日～15 日	2	
聚富中	1 年	8	7 月 22 日	1	10 事業所(新規 2)
	2 年	10	7 月 22 日	1	
	3 年	10	7 月 22 日	1	
浜益中	2 年	12	10 月 28 日	1	5 事業所(新規 3)

- ・ パートナーズスクール事業では、市の豊かな地域資源を活用し、異なる環境における様々な体験活動や学習等を通して、浜益地区・厚田地区の学校と旧石狩地区の学校で相互に交流することを目的に、パートナーズスクール事業を実施し、花川小学校と厚田小学校、双葉小学校と望来小学校、石狩小学校と浜益小学校、緑苑台小学校と聚富小学校の児童が様々な交流を展開しました。

○平成23年度パートナーズスクールの実施概要

パートナー校 →			実施月日	事業概要
1	花川小	厚田小	7月21日	ウォークラリー
	厚田小	花川小	11月24日	全校集会、合同授業（国・総・体）
2	双葉小	望来小	8月23日	砂浜ドッジボール、水遊び
	望来小	双葉小	9月13日	合同授業（国・社・算・理・音・体）
3	石狩小	浜益小	7月21日	さくらんぼ狩り
	浜益小	石狩小	10月13日	協働学習（国・体）
4	緑苑台小	聚富小	9月13日	収穫体験
	聚富小	緑苑台小	11月24日	合同授業（体・音）

子どもの読書活動の推進

- ・ 幼少期の子どもの読書活動推進については、10ヶ月健診の会場で絵本パックを配付し、本を通した親子のふれあいを支援する「ブックスタート事業」、1歳6ヶ月健診の会場で読み聞かせを行う「ブックスタートフォローアップ」を実施したほか、「あかちゃんと絵本のへや」を図書館で開催し、乳児とその親への読み聞かせ等を行うなど、家庭での読書活動を働きかける取組を実施しました。

○子どもの読書活動推進に係る市民図書館の事業

事業名	回数	内容
ブックスタート	月1回	乳児健診（10ヶ月児対象）会場において、保健師、ボランティア、図書館司書連携のもと、乳児の健診と併せて、ボランティアが絵本の読み聞かせを行い、図書館司書が赤ちゃんと保護者の方一人ひとりに、「乳児へのことばかけ」の重要性を説明しながらブックスタートパックを手渡しました。 （H23年度のバック配付数 379セット [H22年度 386セット]）
ブックスタートフォローアップ	月1回	上記のフォローアップとして1歳6ヶ月健診の会場で読み聞かせを行いました。 （H23年度のバック配付数 11セット [H22年度 2セット]）
あかちゃんと絵本のへや	月1回	市民図書館（おはなしのたまご）を会場に親子での参加を想定し、職員が乳幼児向けの絵本を紹介しました。 （H23年度の参加者数 50人 [H22年度 116人]）

- ・ 学校図書館活性化事業としては、八幡小学校で分館職員が読み聞かせを実施したほか、緑苑台小学校図書館の移転など、魅力的な図書館づくりを進めました。
- ・ 巡回文庫（ブックンボックス）は、15校に実施し、学級貸出の拡充を図りました。
- ・ ジュニア・ライブラリアン養成プログラムは、子ども未来館との連携により、小中学生の読書リーダー養成を実施（全9回）し、12人が参加しました。
- ・ 市民図書館の利用方法や調べ方について、ガイダンスを15校で実施したほか、職業体験（カウンター・本の修理・配架等）を5校から受け入れました。
- ・ 花川南小学校でブックトークを実施したほか、花川中学校で朗読を実施し、学校での読書活動の支援を行いました。

- ・ 子どもの読書週間においては、全小中学校で朝読、読み聞かせ、啓発活動など読書活動を推進しました。
- ・ 市民図書館では、ヤングコレクションの充実を図るとともに、こどもの読書週間にあわせた特別事業として、一日中おはなし会、特集展示等を行い、小・中・高校期の読書活動を推進しました。

問題を抱える児童生徒とその保護者への支援体制の充実

- ・ 教育支援教室「ふらっとくらぶ」を年間238日開設し、不登校児童生徒の通級を促しました。市内不登校児童生徒の2割程度にあたる13名が通級しており、通級児童生徒の学校復帰、社会的自立に向けた支援を行いました。平成23年度においては、これまでの学習支援や生徒同士の交流活動のほか、生徒や保護者との関係づくりを目的とした訪問支援活動も行いました。
- ・ 不登校児童生徒への支援と支援体制の充実を図り、恵庭市、北広島市、千歳市と、ミニバレーを通じた子どもたちの交流や支援スタッフの情報交換など、他の自治体との連携した取り組みを行いました。
- ・ 問題を抱える児童生徒とその保護者への支援の取組については、家庭訪問、学校訪問、相談対応などを教育支援センターのスタッフが行いました。
- ・ 市内全中学校へのスクールカウンセラーの配置（道費4名、市費1名で、週1・2回、1校あたり35日程度）を行い、児童生徒・保護者の相談対応、不登校児童生徒への家庭訪問を実施しました。
- ・ 平成19年度から設置している「いじめ通報ホットライン」は、平成22年度より教育支援センターに移し、専門的な知識を持つスタッフや相談員が平日の9時から16時まで電話対応をしました。
- ・ 相談員、支援センター配置職員により、（週2回、1日2時間程度）インターネットパトロールを実施しました。
- ・ 花川北中学校・厚田小学校では、Q-U検査を実施することで、いじめなどの人間関係に関する問題の早期発見を図りました。

Q - U（検査）

Questionnaire-Utilities(楽しい学校生活を送るためのアンケート)の略。学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定できることから、学級経営のための有効な資料が得られるとともに、いじめなどの問題行動の予防と対策に活用できると言われています。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

芸術鑑賞会開催事業・沖縄県恩納村交流事業・生徒指導上の諸問題対策事業・子どもの読書推進事業・読書・学習支援事業・スクールカウンセラー設置事業・不登校児童生徒支援事業・奨励プログラム推進事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
情操教育プログラム参加者のうち、プログラムに感動した児童生徒の割合	%	-	95.9	97.0	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
1年間に体験活動に参加した児童生徒の延べ人数	人	-	6,788	7,233	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「朝の読書」等の一斉読書の時間を設けている小学校数	校	13	13	13	13
「朝の読書」等の一斉読書の時間を設けている中学校数	校	5	6	8	8

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「読書が好き」と回答した児童の割合	%	70.2	72.7	74.9	↗
「読書が好き」と回答した生徒の割合	%	69.6	66.9	67.6	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
巡回文庫による貸出点数	点	5,200	7,605	10,270	7,800

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
不登校児童数の割合	%	0.24	0.38	0.35	↘
不登校生徒数の割合	%	3.76	2.78	3.12	↘

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
小学校いじめの件数(認知件数)	件	113	34	27	↘
中学校いじめの件数(認知件数)	件	92	43	17	↘

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 情操教育プログラムについては、「おしゃべランド」に参加にした児童の 97%が面白かったとアンケートで答えており、子どもたちの情操（芸術などに触れ感動する心）や豊かな感性、コミュニケーション能力を育み、協調性の大切さを学び、音楽が持つ可能性や素晴らしさを再認識してもらう事業として、今後も継続します。
なお、実施時期については、会場室温やスクールバス運行などを考慮し 6 月に開催します。
- ・ セカンドプログラム“The music”については、参加者全体の 95%が「感動した」と回答しており、「おしゃべランド」と同様の効果があるものと分析しています。
なお、平成 23 年度は、実施校の希望により、実施校体育館にて行いましたが、今後においても、実施校における日程確保面も考慮しながら実施時期や会場など検討します。
更に、中学生に対して平成 23 年度は、世界的に貴重な美術・芸術作品に触れる機会を提供するため、石狩美術館の鑑賞“美術館へ行こう”を実施し、90%の参加者が「楽しかった・面白かった」と、アンケートで回答しており、一定の効果があったものと分析しています。
しかし、石狩美術館が、平成 23 年 12 月をもって閉館となったことから、平成 24 年度は、その代替策を含め検討します。
- ・ 道徳教育については、各学校の道徳教育推進教師などが中心となり、平成 23 年度に一定の取組がなされたことから、今後も様々な場面を通じて更なる取組を働きかけます。
- ・ 「俳句のまち - いしかり事業」については、子どもたちが芸術に触れる機会のひとつとして、引き続き実施します。
- ・ 【20ページの再掲】奨励プログラムについては、今後も限られた総合学習の時間の中で学校の特色ある教育活動とのバランスをとりつつ、交付金の配分などを考慮しながら全校で積極的な取組が図られるよう推進します。
- ・ 沖縄県恩納村交流事業については、中学生に、異なる生活・文化・習慣等を理解する機会を提供し、社会性を養うという意味で有効な事業であることから、今後も継続して実施します。
また、平成 23 年度においては、参加者への補助を増額し、経費負担の軽減を図りましたが、引き続き、実施方法などを工夫しながら、生徒が参加しやすい環境を整えます。
- ・ パートナースクールについては、小規模校の児童が大規模校での生活を体験し、都市部の児童が豊かな自然を活かした学習を体験できるとともに、浜益小学校と紅南小学校での ICT も活用した交流など、市内の学校間の交流を図る有効な事業であり、今後も推進します。
- ・ ブックンボックスについては、中学校向けの内容を充実させたことで新たに 1 中学校から申込みがあったほか、小規模校から配本回数を増やしてほしいとの意見もありますので、内容と合わせて見直すとともに、司書未配置校への効果的な支援として 24 年度も引き続き蔵書の充実を図ります。
- ・ ジュニア・ライブラリアン養成プログラムのノウハウを活かし、各小中学校の図書委員会活動が活性化する支援プログラムを検討します。

- ・ 学校図書館ボランティアについては、各校の状況を把握し、学校図書館機能活性化の検討を進めます。
- ・ 学校図書館に司書を配置することで、子どもが本に親しむきっかけとなり、貸出冊数も増えているので、平成 24 年度も継続（配置：緑苑台小、派遣：八幡小、分館との統合：厚田小）するとともに、司書未配置校への支援をメニュー化し、学校図書館の活性化を図ります。
- ・ 「家読」については、親子のコミュニケーションに有効なことから、平成 24 年度は、南線小学校・八幡小学校において冬休み中の実施を検討します。
- ・ 石狩市子どもの読書活動推進計画にもとづいて、さまざまな読書活動推進へ取り組み、また、その成果などと併せ、積極的に広報活動など行い、読書活動が全市民に普及拡大するよう取り組みます。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、読書活動推進の取組やその成果が、様々な広報活動などを通じて中学生、更には市民も含め、全市的に普及拡大することが期待される旨、意見をいただいたところです。

- ・ 不登校児童生徒の割合は、ここ数年減少傾向でしたが、平成 23 年度は、パソコンや携帯電話（スマートフォン）の普及による、昼夜逆転やひきこもり、さらには周りの子どもたちとのコミュニケーション不足などにより、若干増加したものと分析しています。
この様なことから欠席する児童生徒が増えていますので、引き続き小中連携によるカウンセラー派遣や、子ども相談センターなどとの連携を図りながら、子どもが抱える不安の解消を目指し取り組みます。
- ・ 人間関係や心的理由により、学校へ行くことができない児童生徒に対して、将来的自立支援や居場所としての「ふらっとくらぶ」の活動は大切なことから、今後も継続して取り組みます。
また、学校や不登校に対する支援機関との関係がつくれず、支援を受けることができていない児童生徒や、「ふらっとくらぶ」に通うことができていない児童生徒に対しては、学校や関係機関等とも連携しながら、家庭訪問や電話による働きかけなどを積極的に行います。
- ・ 他の自治体との、子どもたちや支援スタッフの情報交換などの交流を、今後とも継続的に実施し、不登校児童生徒への支援と支援体制の充実を図ります。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、不登校児童生徒の対応については、他の自治体の子どもたちや支援スタッフと連携した取組の成果が見込まれることから、今後とも積極的に交流を深められたい旨、意見をいただいたところです。

- ・ いじめの認知件数は、小中ともに減少していますが、市内全小中学校でのアンケート実施や懇談などにより未然防止、早期解決が図れたことや、いじめはいけないうことであるという日頃からの指導の成果と考えられます。
今後も 1 年を通して、いじめの実態把握を通じた未然防止に取り組みます。
- ・ Q-U 検査については、平成 23 年度に実施した 5 校において、人間関係に関する問題の早期発見に有効であるとの評価を得ていますので、今後、実施校の拡大を図ります。

施策（大項目）6 心身の健やかな成長を促す教育の推進

●大項目のねらい

児童生徒自らが生涯を通じて健康な生活を送ることができる力を身につけるため、健康や安全に関する知識と基本的な生活習慣を育む取組とともに、生涯にわたって運動等に親しむ資質や能力を育成するため、体力・運動能力の向上を図る取組を支援します。

また、核家族化や少子化を背景に、子育てへの不安の高まりが指摘されている中で、すべての教育の出発点である家庭で望ましい生活習慣や学習習慣を定着させられるような環境づくりを進めます。

●平成23年度の実施状況

健康な身体を育む教育活動を推進

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、平成22年度から抽出方式になりましたが、本市では、市内全体の児童・生徒の状況や学校の取組状況などを把握するため、全校で実施しました。
- ・ 体育科授業では、市のスポーツであるソフトボールを取り入れている花川南小学校及び双葉小学校に、ソフトボール協会が指導者を派遣したほか、中学校の部活動外部指導者活用事業により、6名の地域の人材が指導者として活動しました。また、スポーツ支援SATとして、水泳やスキー授業での外部指導者活用を行いました。

○スポーツ関連の外部指導者等の状況

区分	H21	H22	H23
スキーSAT	延べ 166名 14校	延べ 194名 15校	延べ 182名 15校
水泳SAT	1名 1校	1名 1校	1名 1校
中学校部活動外部指導者	6名 5校 (野球、剣道、ソフトテニス、バレーボール)	6名 4校 延べ 392日 (野球、剣道、ソフトテニス、バレーボール)	6名 4校 延べ 494日 (野球、剣道、ソフトテニス、バレーボール、バドミントン)
ソフトボール協会指導者	-	3名 1校 9時間(6年2クラス、10月に実施)	6名 2校 20時間(6年5クラス、9～11月に実施)
非常勤部活動指導者(道費)	-	1名 1校 週あたり4日(12時間)	-

- ・ 小学校が実施するスキー学習については、バス借り上げ料を交付し、北国特有の冬のスポーツであるスキーの習得とともに、冬場の外でのスポーツ・運動機会の確保に努めました。(12校 参加児童数 2,173名)
- ・ 遊具については、6月に全小学校の点検を実施して必要な修繕を行い、子どもたちの遊びを通じた運動の場を提供しました。
- ・ 薬物乱用防止教室については、保健体育などの授業等において、市内全中学校で実施しました。
- ・ 子どもへの暴力防止教育プログラム(CAPプログラム)については、全小学校(3年生を中心)で実施し、子どもが自分の心と身体を大切に生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から、子ども自身が自分を守るための教育を推進しました。
- ・ 食育推進支援事業としては、食育DVDを活用し、小中学校における食育活動を推進しました。

- ・ 参観日や出前講座時では、パンフレットを配布し、学校・家庭と連携した食に関する指導を実施するとともに、栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭未配置校へ訪問指導）により、食に関する指導の充実を図りました。
- ・ 【22ページの再掲】地産地消等については、9、10月に石狩でとれる農産物を多く使用した給食メニューを取り入れる「石狩デー」を実施したほか、厚田産たこを使った「厚田たこかま揚げ」や、しそを使い「厚田しそプレート」、石狩産小麦で「うどん」を提供するなど、地元の農水産物を使った給食メニューの充実を図りました。

市民皆スポーツを目指した生涯スポーツの推進

- ・ 市民スポーツまつりでは、小学生駅伝、中学生駅伝に加え、平成22年度から「小学校低学年タスキリレー」が新設されました。これらに児童生徒の積極的な参加がなされ、子どもたちが運動習慣を身に付けるきっかけにもなりました。

○市民スポーツまつり参加チーム数

区 分	21年度	22年度	23年度
小学校駅伝	52 チーム（10校）	55 チーム（10校）	51 チーム（8校）
中学校駅伝	25 チーム（5校）	18 チーム（6校）	10 チーム（5校）
小学校低学年タスキリレー	-	21 チーム（10校）	悪天候の為中止

基本的な生活習慣定着のための家庭環境づくり

- ・ 望ましい生活習慣の定着に向けて、更に家庭に働きかける必要があることから、市PTA連合会と連携し、生活習慣啓発かるた「いしかりっ子いきいきカルタ」を作成したほか、広報いしかり12月号及び1月号において、望ましい生活習慣について、周知を図りました。
- ・ ブックトークが、読書習慣の形成に役立つことから、館内で年間を通した研修会を実施しました。
- ・ ぴよぴよ広場については、子育て支援課において行うことが行政組織機能の点から効率的であることから、平成23年度は同課が実施する事業に包括的に移管されました。
- ・ 携帯電話教室・非行防止教室などの安全教育の積極的実施を促すために、専門的知識を持つ警察や電話会社についての情報を市内小中学校に提供しました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

体力・運動能力向上推進事業・子どもへの暴力防止プログラム事業・家庭教育支援事業・外部指導者活用事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を 50とした場合の石狩市の小学校5年生の値(男子)	-	-	47.5	47.5	50以上
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を 50とした場合の石狩市の小学校5年生の値(女子)	-	-	46.0	47.0	50以上
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を 50とした場合の石狩市の中学校2年生の値(男子)	-	-	45.4	47.8	50以上
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を 50とした場合の石狩市の中学校2年生の値(女子)	-	-	43.8	43.9	50以上

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
体力・運動能力調査で、週1日以上体育の授業以外で運動・スポーツをすると答えた小学校5年生の割合(男子)	%	-	87.9	83.1	100
体力・運動能力調査で、週1日以上体育の授業以外で運動・スポーツをすると答えた小学校5年生の割合(女子)	%	-	79.4	69.4	100

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
薬物乱用防止教室・キャラバンカーによる指導を実施した中学校数	校	3	5	8	8

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
栄養教諭による食に関する派遣指導(配置校外での指導)延べ回数	回	103	132	135	160

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市民意識に関するアンケートで「この1年間で継続的にスポーツを行っていますか」という問いに「はい」と答えた割合	%	29.7	39.8	38.5	

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
ぴよぴよ広場の参加延べ人数	人	320	328	29	480

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」又は「どちらかといえば、している」と回答した児童の割合	%	93.3	95.7	94.4	100
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」又は「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合	%	92.4	92.1	88.1	100

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「3時間以上」と回答した児童の割合	%	5.9	5.9	10.8	3.3
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「3時間以上」と回答した生徒の割合	%	11.1	13.2	20.2	7.9
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「4時間以上」と回答した児童の割合	%	3.5	2.7	5.4	1.6
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「4時間以上」と回答した生徒の割合	%	6.5	5.2	11.1	4.0

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
ケータイ・ネットゲームの望ましい利用方法についての指導などを実施した中学校数	校	-	6	6	8

【分析・評価及び今後の方向性】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、石狩の子どもたちは、体格では全国を上回っているものの、実技調査では、多くの項目（特に敏捷性や全身持久力など）で全国を下回っており、特に、女子の運動習慣が前年に比べ低下していました。また、基本的な生活習慣にも課題がありました。このため、平成 24 年度以降についても本調査を全市で実施するとともに、各学校で児童・生徒の状況を把握しながら、一校一プランの実践、体育授業の進め方の検討や、新体力テストの取組など、学校生活内における運動習慣の定着を図るための特色ある取組を推進します。
 - 新指導要領への移行により、体育の授業でボール運動のベースボール型（Ｔボールやソフトボール）を取り組む学校のうち、希望する学校については、ソフトボール協会から指導者を派遣するなどの支援をいただけることになりました。また、外部指導者活用事業では、スキーの指導において安全確保のほか、よりきめ細やかな指導が求められていることから、スキーＳＡＴによる支援を行います。
 - 食育については、食指導や食育に関して、学校におけるニーズが増加していることから、今後、栄養教諭の効率的な活用の推進を図ります。
 - 駅伝・タスキリレーなど、市民スポーツまつりへの児童生徒の参加が、更に拡大されるよう働きかけるとともに、参加に向けた支援を行います。
 - 望ましい生活習慣の定着に向けては、早寝、早起き、朝ごはんなどの項目を記載した「生活リズムチェックシート」を活用するなどして、今後においても、市ＰＴＡ連合会と連携をしながら取組を進めます。また、インターネットについては、今日の情報化社会において、娯楽的な利用のみならず、学習や生活面での有用性が高まっていますが、誤った利用方法等による被害もあることから、実生活時間とインターネットを行う時間とのバランスやその利用内容等について、学校の情報に関する教育の場において、子どもたちへ適切な指導がなされるよう働きかけます。
- =====
- 平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、携帯電話やインターネットなどにかかわる情報モラルについての啓発活動は、今後とも大切であり、継続した取組を期待する旨、意見をいただいたところです。
- =====
- 薬物乱用防止については、学校においても子どもたちが薬物に対する正しい知識を持つことが必要であるとの認識のもと、市内全中学校において指導に取り組んでいます。今後も中学校はもちろんのこと、小学校においても実施に向け、学校の年間計画に取り入れるよう働きかけます。

教育プラン基本構想 重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育

施策（大項目）7 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

●大項目のねらい

核家族化や少子化などの社会変化や地域の結びつきの低下などを背景に、青少年をめぐる問題が深刻化しています。

このような中で、地域の大切な一員である青少年の健やかな成長のため、多様な活動の場や機会の充実を図るとともに、地域で子どもを育てる環境づくりを進めます。

また、我が国が批准した「児童の権利に関する条約」を踏まえ、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するための環境づくりを進めます。

●平成23年度の実施状況

子どもの権利の保障の推進

- 【32ページの再掲】子どもへの暴力防止教育プログラム（CAPプログラム）については、全小学校（3年生を中心）で実施し、子どもが自分の心と身体を大切にして生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から、子ども自身が自分を守るための教育を推進しました。

○CAP事業参加状況

区分	H22	H23
学校数（校）	13	13
児童数（人）	817	562
教職員数（人）	155	118
保護者数（人）	110	75

地域で子どもを育てる環境づくりの推進

- 学校と地域とが連携して安全、安心への取組を進めるため、関係機関が情報を共有し、子どもたちのためにどのような支援をすることができるのかを協議し、学校を核とした地域で子どもたちを見守る体制づくりを目指す「石狩市子ども安全・安心連絡推進協議会」を開催しました。（6月、12月）
- 事故発生の未然防止や子どもたちの緊急避難場所の確保並びに警察への速やかな通報体制整備を目的として、こども110番いしかりサポート事業を実施しました。

こども110番いしかりサポート事業

登録者にステッカーを配布し、こども110番の家として登録し、子どもの緊急避難場所として子どもを保護するとともに、警察へ通報するしくみです。

（平成23年度末までの登録件数は877件、平成23年度における通報件数は0件）

- 【19ページの再掲】学校と家庭や地域の団体などが連携し、地域のボランティアを中心に登下校時などにパトロールや見守りなどを行う「スクールガード」「声かけ運動」の活動などを通して、地域全体で学校安全に取り組む体制を整備し、子どもたちが安心して生活できる地域づくりを図りました。
（平成23年度 実施学校数 11校、ボランティア数 600名程度）
- 【19ページの再掲】地域住民の学校教育活動への参加の取組としては、地域SAT（10名）、中学校部活動外部指導者（6名）、学校支援地域ボランティア（延べ419名）の活動が行われました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
石狩市PTA連合会運営支援事業・子どもへの暴力防止プログラム事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市民意識に関するアンケートで「児童の権利に関する条約」を知っていると答えた割合	%	12.0	11.7	13.5	20

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
CAPプログラム実施小学校数	校	5	13	13	13

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
メール配信サービス登録件数(不審者情報)	件	791	1,342	1,515	↗

【分析・評価及び今後の方向性】

- 子どもへの暴力防止教育プログラム（CAPプログラム）については、全小学校において取組が実施されました。このことにより、全ての児童に対して計画的に自分の心と身体を大切に生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から自分を守るための教育をする機会の提供ができるようになりました。平成24年度以降も、計画的なプログラムの実施を推進します。
- 石狩市子ども安全・安心連絡推進協議会については、市内各小学校で行われている学校や地域の取組を把握し、学校間においては他校の取組を参考とすることができることから、今後も継続して実施します。
- こども110番いしかりサポート事業については、安全・安心連絡推進協議会において協議がなされ、一定の抑止効果があるため引き続き登録者を拡大していくことが確認され、正確な状況を把握するため、平成23年3月から4月にかけて登録者の再確認を行いました。今後も定期的に確認を行い、より正確な登録者情報を学校や子どもたちに提供します。
- 【20ページの再掲】「スクールガード」・「声かけ運動」については、登下校時など学校や子どもたちだけで身を守ることは限界もあり、地域の子もたちは地域で育て、守り、子どもたちが安心して生活できる環境を整えることが必要です。不審者の発生件数にあまり変化はないものの、大きな事件が起きていないことから、地域の人たちによる見守りが定着してきた成果とも分析されます。一方、学校区によって活動に温度差があることから、市内全域で学校と地域が一体となって活動を行っていくよう働きかけます。

- ・ 【20 ページの再掲】地元にある藤女子大学の学生や地域の方々による SAT 活動、読み聞かせ活動、中学校部活動指導などについては地域の教育力を活用した有効的な手段であることから、平成 24 年度以降も積極的に展開します。

学校支援地域本部事業にかかる学校支援地域ボランティアは、学校ニーズの掘り起こしと地域との連携が深められたことにより増加しており、これまで花川北中学校区で行われてきた学校支援ボランティア活動、花川南小学校で実施したあい風寺子屋事業や、放課後こども教室を活用した放課後の学習支援などの取組に、保護者の方々から大きな期待が寄せられていることから、今後更なる充実に向けて取り組みます。

=====
平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、あい風寺子屋事業に代表される、新しいスタイルの地域で子どもを見守り育てるシステムは展望の持てる地域活動であり、一層の充実に期待する旨、意見をいただいたところです。
=====

施策（大項目）８ 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実

●大項目のねらい

市民の生活様式の多様化に伴い、学習に対するニーズも多様化・複雑化・高度化が進んでいます。このような中、市民一人ひとりの学びへの意欲を喚起し、学習の方向性を見出し、互いに学び合う生涯学習を充実するため、人生各期に応じた学習機会の充実を図るとともに、自らの主体的な学びを支援します。

また、学習を通じた地域社会の活性化を目指すため、市民の学習ニーズを的確に捉え、積極的な支援を行うとともに、自らの学習成果や能力を生かし、互いに学び合うことができる環境づくりを進めます。

●平成 23 年度の実施状況

多様な学習機会の提供・主体的な学習活動の支援

- ・ 市民ボランティア「いしかり学びをつくる会」と教育委員会が協働でつくる新しい学びの場「いしかり市民カレッジ」は、誰でも、いつでも、学ぶことができ、更に自ら企画したり教えたりできる新しい学びのかたちを創生しており、主催事業は 19 講座、48 回と着実に取組が進んでいます。
- ・ 仕事や趣味などで得た知識、経験、技術などを活かした講座を自ら企画・運営し、講師として市民の学びの手助けをする「まちの先生企画講座」を 3 講座、10 回開講し、講師と受講者との学びあいを大切に市民が主役の新しい生涯学習の推進に寄与しました。
- ・ 生涯学習事業のうち、シニアを対象とした地域ごとの講座は、はまなす学園を 16 回開催したほか、おらが元気塾（厚田区）いきがいづくり学園（浜益区）などを実施しました。なお、このほかの講座は、市民カレッジの講座にシフトしています。
- ・ まちづくり出前講座（68 メニュー）により、市が推進する施策をテーマとした学習機会の提供を図りました。（34 件利用）

学習成果の発表・交流の場の充実

- ・ 旧紅葉山小学校の跡地利用として、「石狩市学び交流センター」を開設（平成 23 年 4 月）し、新たな学習活動と交流の場を提供するなど、その充実を図りました。

社会教育を進める主体的な団体活動の支援

- ・ 公民館まつりを 3 月 17・18 日に開催し、公民館を使用して活動している団体・サークルの日ごろの成果を発表する機会を提供しました。（26 団体参加）
- ・ 市内単位 P T A の連絡調整を図り、市内教育の振興に寄与している石狩市 P T A 連合会に対し、その活動経費の一部を補助するとともに側面支援することにより、教育活動の振興や地域における教育環境の改善充実を図りました。
- ・ ユネスコ憲章の精神に基づき、地域に根ざした民間ユネスコ活動をしている団体に対し、その運営費の一部を補助するとともに側面支援することにより、石狩市の教育・科学・コミュニケーションの向上、平和に対する意識を高めました。なお、平成 23 年度は生振小学校に続き、双葉小学校において、「ユネスコ・スクール認定」のための取組を行いました。

- ・ 青年交流、文化祭など、地域行事のサポートなどの活動を行う石狩市青年団体連絡協議会に対し、その運営経費の一部を補助するとともに側面支援することにより、各地域の融合や地域づくり、さらにはまちづくり等を推進しました。
- ・ 青少年の健全育成、地域福祉支援等の取組を行う石狩市女性団体連絡協議会に対し、その運営経費の一部を補助するとともに側面支援することにより、女性の特性を活かした自主的・積極的取組を推進しました。

学習活動を支援する環境整備の充実

- ・ 公民館（３箇所）・ふれあい研修センター・美登位創作の家・カルチャーセンターについて、その機能や利用者サービスが確保されるよう、適切な施設管理を行いました。また、平成２３年４月に、学び交流センターを開設し、市民の学びの場の機会の拡充に努めました。
- ・ 社会教育主事の配置については、平成 23 年 4 月 1 日現在で、社会教育課：主事 2、市民図書館：主事 2 厚田生涯学習課：主事 1 の計 5 人です。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
生涯学習講座開催事業・公民館管理運営事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
いしかり市民カレッジの登録者数	人	-	209	200	200

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市民アンケートで「自ら進んで芸術・文化、ボランティア、趣味・教養などの学習活動を行っていますか」という問いに「はい」と答えた割合	%	38.6	37.2	31.2	50

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
石狩市学び交流センター・公民館・カルチャーセンターの延べ利用者数	人	51,000	50,021	61,297	

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
社会教育関係団体の登録数	団体	148	150	152	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
社会教育主事の配置人数	人	6	5	5	↗

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 市民アンケートからみると、自ら進んで生涯学習活動を行っている割合が伸びていないのは、高齢化の影響や若い世代に共働きが増え、時間的な余裕がないことなどが要因と推察されます。今後は、石狩市学び交流センターを拠点に、体験講座等の開催により新たな団体・サークルの設立を目指すなど、自ら進んで生涯学習活動をしやすききっかけづくりや環境づくりを図ります。
- ・ いしかり市民カレッジについては、主催事業を増やすなど、誰でもいつでも学ぶことができるとともに、自ら企画したり教えたりできる学びの形として取り組んだ結果、市民に定着してきていますが、今後は市民主体の組織として全国的にその成果を発信し、市民とその成果を共有することができるよう取り組みます。

=====

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、いしかり市民カレッジについては、市民主体の組織として全国的にその成果を発信し、市民とその成果を共有することが大切であり、一層の充実を期待したい旨、意見をいただいたところです。

=====

- ・ はまなす学園、おらが元気塾（厚田区）、いきがづくり学園（浜益区）については、それぞれの地域におけるシニア世代を対象にした講座を通した通年の学習・交流の場となっており、参加者も定員を超える状況です。今後は、さらにその需要が高まることが予想されることから、魅力的な学習内容を提供するとともに、参加者の自主性も発揮できるような事業内容とすることに努めます。
- ・ まちづくり出前講座については、34 件の利用で前年よりは増加しましたが、特定のメニューが集中的に利用されている状況にあります。市役所内の連携・調整を強化し、メニューにない講座の申込みがあったときは、可能な限り要望に沿う内容での開催や、新たな社会情勢や各種制度、市民ニーズに対応したメニューの設定に努めます。
- ・ 石狩市学び交流センターは、特別支援学校、児童発達支援及び放課後等デイサービスを行う事業所との複合施設であり、教育と福祉の連携による地域に根ざした施設として、平成 23 年 4 月に開設しました。今後は、その特性を活かしつつ、公民館等の既存施設との機能分担を図り、より地域住民が利用しやすい施設となるよう努めます。
- ・ 各種団体活動の支援については、引き続き運営経費の一部を補助するとともに、社会教育関係団体登録制度を通して施設使用料の減免などを行うほか、これから活動しようとする市民への情報提供など活動しやすい環境づくりに努めます。同制度の登録申請件数は、横ばいの状態ですが、今後とも市民の自主的な社会教育活動を支援します。
 なお、ユネスコ活動については、平成 23 年度は、双葉小学校のユネスコ・スクール認定に向け活動中であり、今後とも計画的な認定校指定に向けた支援を検討します。

- ・ 社会教育事業の推進や関係団体の育成・支援にあたっては、社会教育主事の専門性に基づく指導・助言が必要なことから、今後、職員の社会教育への専門性を高める取り組みを図ります。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、社会教育主事ほか、生涯学習の関連職員の研修を行うなど、専門性を高めて行くことを期待する旨、意見をいただいたところです。

施策（大項目）9 学習の拠点としての図書館サービスの充実

●大項目のねらい

図書館は、社会の発展を縁の下で支える施設です。子どもから高齢者まで多くの人々に開かれた施設である図書館は、情報が溢れかえる現代社会においても、市民の人生を充実したものとするうえで、重要な役割を担っています。主体的に学び、活動しようとする人々の思いを受け止め、その実現を支援するため、生涯学習や地域文化の創造、郷土理解の重要な拠点として、市民図書館のサービスの充実を図ります。

●平成 23 年度の実施状況

情報発信を通じた生涯学習への支援

- ・石狩市民図書館では、海浜植物保護センター、公民館、砂丘の風資料館で構成する「いしかり館ネットワーク」において、「いしかり館めぐり MAP」の作成、「いしかり館めぐりツアー」を実施するなど、横断的な情報発信と学習機会の提供に努めました。
- ・図書館講座や特別展示などを行い、学習機会の提供を図りました。

○図書館講座・特別展示等の実施状況

事業名	時期	内 容
図書館講座	7/2（土） 1/29（日） 3/20（火祝日） 3/31（土）	石狩の海と松本十郎【参加 51 人】 未成年期からの宿題【参加 115 人】 探偵はバーにいる～映画と原作【参加 102 人】 庄内藩のハママシケ（浜益）開拓【参加 98 人】
特別展示	12/ 8（木）～ 12/17（土）～ 1/ 7（土）～ 1/31（火）～	鈴木トミエ追悼展示 子母澤寛生誕 120 年「子母澤寛の世界」 真岡の風景（図書館講座関連行事） 平成 23 年度石狩市教育委員会表彰 受賞者特別展示
特集展示	通年	テーマを設定して資料を展示し、各種情報を発信しました（計 17 回）

- ・図書館ホームページの更新に努め、情報提供の充実を図りました。
- ・レファレンス記録の整理と研修を実施し、レファレンスサービスや資料提供機能の向上を図りました。

サービスを支える基盤の整備

- ・「子ども図書館だより」や「図書館資料（図書館要覧）」を発行したほか、図書館ホームページの内容の見直しと更新頻度を上げるなど情報提供の充実を図るとともに、いしかり館ネットワーク事業において、図書館見学を取り入れた館めぐりツアーを実施するなど、開かれた図書館づくりに努めました。
- ・ボランティア活動団体の育成や協働等を進める取組として、6 月に修理ボランティア講習を実施したほか、読書活動関係団体及び各種団体との連携を進めました。また、ブックマーチ（本のリサイクル市）などを通して、石狩市市民情報活動センター「ばばらーと」との連携を図りました。
- ・図書館職員等の研修については、全道図書館初任者、中堅職員研修会や、石狩管内図書館研究会協議会研修会のほか、北海道古文書解読講座などに積極的に参加し、図書館職員としての専門性を高め、サービス・事業の質的向上を図りました。

期待に応える蔵書・情報源の構築

- 基本的な資料の収集・整理・保存を中心に、児童書及びヤングコレクションの充実などを図るとともに、石狩や北海道に関する資料の収集を図りました。

○年度毎の地域資料の収集状況

区分	H21	H22	H23
収集点数	11,380	13,552	16,210
内、石狩・北海道関係資料	1,071	1,231	873

- 平成 22 年度より導入した新聞記事データベースの継続的な充実に努め、レファレンスに活用するなど、調べものに役立つ環境の整備を進めました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
図書館運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
石狩市の人口に占める市民図書館利用登録者の割合	%	31	21	21	35

平成 22 年度の登録者数は減少は、平成 22 年 4 月以降、利用者カード作成後 3 年間 1 度も借りていない人の除籍を開始したことによります。

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
直近の1年間に受け入れた資料数が蔵書全体に占める割合	%	4.5	5.0	5.6	6.0

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
地域行政資料の点数	点	22,772	25,066	25,933	31,200

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 図書館新規登録者数については、各種事業の開催時にPRしたほか、市職員やブックスタートバック配付時にPRするなどした結果、昨年度より101人多い3,268人となりました。今後においても、市内の大きなイベントでのPRや転入者に利用案内を配布するなど、計画的に石狩市民の登録者数増加を図り、目標値の達成を目指し取り組みます。

平成22年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、利用者一人当たりの貸出数は増えているものの、利用登録者数については、目標値との差が広がっているため、計画的な取組が必要である旨、意見をいただいたところです。

- ・ 図書館講座や各種展示を実施し、本に関わる興味、関心を醸成するとともに学習機会の提供を図りました。平成24年度においても、関係機関と連携して図書館の蔵書を活かした地域情報や各種情報の提供に努めます。
- ・ 蔵書全体に占める新しい資料の割合は、16,210点（昨年度より2,658点増）の新規受入により5.6%となりました。今後は購入だけでなく、寄贈受入体制（特に雑誌・人気本など）も含めて魅力的な蔵書の整備を進めます。また、地域行政資料については、前年度比867点増を図ることができましたが、絶版・個人出版など流通していない場合も多く、寄贈を含めて受入体制を強化します。
- ・ 情報発信については、ホームページの充実や図書館の話題をお知らせする「図書館トピックス」を試験的に作成したほか、レファレンス研修を行って情報提供機能を高めました。今後も情報発信の機能を強化し、ホームページの更なる充実、レファレンス・ブックの充実やレファレンスの記録の整理を行い、市民の生涯学習を支援します。
- ・ 宅配サービスについては、対象は全市民ですが、視覚障がい者の利用にとどまっています。今後は、特に交通の不便な地域への周知など、効果的な利用促進を図ります。
- ・ 分館の活性化については、蔵書の入替（全分館）や八幡分館のリニューアルを行いました。今後も、リサイクルコーナーの設置（花川南）分館だよりの発行（厚田）施設利用者へのPR（全館）を行うなど、図書館サービスの充実を図ります。
- ・ 開かれた図書館づくりについては、図書館資料等により図書館の運営状況を周知したほか、いしかり館ネットワーク主催で「いしかり館めぐりツアー」を行い、利用促進を図りました。平成24年度は、図書館協議会により良い図書館づくりを協議いただくなどして、さらに利用者とのコミュニケーションを図ります。
- ・ 市民との協働については、ボランティア・団体と協力して読書推進を進めたほか、市内団体の事業に共催、または協力するなど、地域拠点としての市民図書館の役割を果たしていますが、今後も継続して市民との協働による事業展開を図ります。
- ・ 図書館職員等の研修については、図書館職員としての専門性を高めることにより、サービスや事業の質的向上が図られることから、今後も継続して取り組みます。

平成22年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、図書館職員等の研修参加など、その専門性をより高めていくことを期待する旨、意見をいただいたところです。

施策（大項目）１０ 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

●大項目のねらい

心の豊かさを求める時代において、市民がともに感動し、交流を図りながら、生活にうるおいや生きがいを見出すことが求められています。

質の高い、個性的な文化の創造を図るため、多様な芸術文化に触れ、創作活動への支援を図るとともに、「心のふるさと」としての地域を再認識し、新たな地域文化の創造を目指した環境づくりを進めます。

●平成 23 年度の取組状況

芸術文化に親しむ機会や交流の場の充実

- 石狩市公民館では、平成 23 年 10 月からの第 56 回石狩市民文化祭、厚田生涯学習フェスティバル、浜益区文化祭、クリスマスコンサートのほか、共催事業、協賛事業への支援を通して、市民が芸術文化に親しむ機会や発表・交流する場の充実を図りました。

○第 56 回石狩市民文化祭の実施状況

部門	会場	実施日	内 容
展示会場	花川南コミセン	10 月 14 日 ～ 16 日	絵画・写真、書道、文芸（俳句・短歌）手工芸、生け花、雅楽等の作品展示、陶芸など
舞台会場	花川北コミセン	10 月 15 日 16 日	日本舞踊、伝承芸能（詩吟、詩舞、三味線、琴、大正琴）洋舞（フラダンス、バレエ、バトントワリング）など
厚田生涯学習フェスティバル	厚田総合センター	11 月 6 日	[舞台] 厚田区小学校音楽のつどい（器楽演奏等）、サークル発表（和太鼓、舞踊等）[展示] 厚田区小中学生の作品展示（絵画・書道等）、サークル発表（手芸、絵画、書道等）
浜益区文化祭	浜益コミセン	11 月 6 日	[舞台] 太鼓、詩吟、舞踊、カラオケ、浜益小劇場など、[展示] 写真、手工芸、ステンドグラスなど
クリスマスコンサート	花川北コミセン	12 月 10 日	出演団体 / 石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団、南線小学校リコーダークラブ、花川中学校吹奏楽部、花川北中学校吹奏楽部、花川南中学校吹奏楽部、樽川中学校吹奏楽部、石狩翔陽高等学校吹奏楽局、石狩南高等学校吹奏楽部

○市民文化祭共催事業の実施状況

事業名	会場	実施日	内 容
いしかり菊花展	花川北コミセン	11 月 1 日 ～ 3 日	[展示品] 大菊（3 本仕立て、1 本仕立て、福助作り、布袋作り、だるま作り、数仕立て）小菊（懸崖作り、小懸崖作り、盆栽作り、玉作り、特作・アイディア作り）
オータムコンサート	花川北コミセン	10 月 1 日	出演団体 / 当別混声合唱団パストラルクワイヤ、音の会、女声コーラスいしかりエコー、石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団、コル・ソナーレ、アルバ・コラーレ、石狩混声合唱団

- 【 25 ページの再掲 】市内小中学生を対象に、音楽朗読劇や幅広い音楽ジャンルの鑑賞、演奏体験などの機会を提供する情操教育プログラムを実施しました。
- 【 26 ページの再掲 】子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実を図る取組として、情操教育プログラムに加え、札幌広域圏組合が行う K i t a ジュニアコンサート（主に小学 6 年生対象）に 8 校が参加したほか、「俳句のまち - いしかり事業」では、子どもの部（市内小中学生対象）で 2,030 作品の応募があり、子どもたちが文化芸術に触れる機会となりました。また、石狩ユネスコ協会の「わたしの町のたからもの絵画展」への参加についても奨励しました。

- ・ 市役所ロビーで、ロビーコンサート（５回）及びロビー展（５回）を実施し、身近に芸術文化を発表、鑑賞できる場を提供しました。

市民の主体的な芸術文化活動の支援

- ・ 石狩市芸術文化振興奨励補助事業を通して、市民の自主的な芸術文化振興の奨励を図りました。（交付団体等：石狩青年会議所）
- ・ 地域創造アトリエ事業補助金を交付し、NPO 法人アートウォームが行う芸術文化活動（創作活動・情報発信活動）を支援しました。
- ・ 石狩市文化協会に対しては、拠出金を交付したほか、事業の周知や関係機関との調整等の側面的な支援を行いました。なお、同協会は、平成 23 年 4 月に開設した石狩市学び交流センターへ事務所を構え、俳句のまちいしかりこども俳句コンテストや、同センターを活用した新たな主催講座の開催などを積極的に行っています。
- ・ 地域に根ざした企業などが、平成 22 年度に創設した「石狩市教育委員会文化芸術支援制度」に基づき、文化芸術に関する担い手となる団体等へ継続して寄付をしていただき、石狩市の文化芸術の振興に多大な貢献をしていただいています。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

石狩市民文化祭開催事業・石狩市文化協会運営支援事業・地域創造アトリエ事業

● 分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市民文化祭の入場者延べ人数	人	6,193	5,843	6,113	↗

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
石狩市文化協会の主催・共催事業数	回	7	6	9	9

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 市民文化祭については、実行委員会は、自らのデザインによるポスターの作成、各世代に配慮したプログラム作成や「お茶席」「手打ちそばの実演・販売」を実施するなど、手作り感の醸成と鑑賞環境の工夫を図りました。また、厚田会場では、多くの地元小中学生が参加し、地域の一体化を図り、浜益会場では、旧石狩市地域の文化団体の参加など、地域間の交流も図られました。今後も実行委員会によるこのような様々な工夫をこらした取組を支援します。
- ・ 【３０ページの再掲】情操教育プログラムについては、「おしゃべランド」に参加にした児童の９７％が面白かったとアンケートで答えており、子どもたちの情操（芸術などに触れ感動する心）や豊かな感性、コミュニケーション能力を育み、協調性の大切さを学び、音楽が持つ可能性や素晴らしさを再認識してもらう事業として、今後も継続します。
なお、実施時期については、会場室温やスクールバス運行などを考慮し６月に開催します。
- ・ 【３０ページの再掲】「俳句のまち - いしかり事業」については、子どもたちが芸術に触れる機会のひとつとして、引き続き実施します。
- ・ ロビー展・ロビーコンサートについては、応募、集客とも堅調であり、市民の身近な芸術活動の発表・鑑賞の場として定着しているため、今後も継続して開催します。
- ・ 石狩市文化協会については、組織基盤の強化を図るため、平成２２年１１月にＮＰＯ法人化を図り、また、平成２３年度には活動拠点として、石狩市学び交流センター内に事務所を設けており、当該施設を利用した活動や、文化活動の担い手育成など積極的に展開し、芸術文化活動が一層市民に広がり、質が高まるよう取り組んでいますことから、引き続き支援します。

=====

平成２２年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、石狩市学び交流センターを拠点に、文化活動の担い手育成につながる研修を実施するなど、芸術文化活動が一層市民に広がり、質が高まることを期待する旨、意見をいただいたところです。

=====

- ・ 石狩市芸術文化振興奨励補助事業については、平成２３年度は「いしかりミュージカル」に対し補助を行い、約８００人が来場しました。今後は、さらに市民の自主的な文化芸術活動を促し、芸術文化に触れる機会を創出するため、補助事業の効果的な周知等を図りながら、継続して取り進めます。
- ・ 地域創造アトリエ事業補助金については、アートウォームを運営するＮＰＯ法人に補助を行いました。同施設は演劇・演奏などの講演などが行われるほか、子育て世代の親子が一緒に楽しめるカフェが併設され、芸術文化に触れることのできる身近な施設として、広く活用されるようになっていること、また、同施設を運営するＮＰＯ法人は、施設所有者との賃貸借契約期間を更新し、安定的な事業運営が可能となったことから、今後とも、芸術文化及び教育活動の振興を図るため、同法人へ補助事業による支援と、助言・指導等側面的支援に努めます。
- ・ 文化芸術支援制度については、地元企業の支援が、文化芸術を担う団体の活動に直接的に活かされ、文化芸術振興策として有効であることから、今後もより多くの団体に支援がなされるよう、新たな支援企業等の確保に向けた制度のＰＲなどに努めます。

施策（大項目）１１ ふるさとを学び伝える取組の充実

●大項目のねらい

郷土への理解と愛着を深め、文化・伝統を継承するため、文化財を適切に保護、保存し、その活用を図るとともに、ふるさとを学ぶ機会の充実を図ります。

●平成 23 年度の取組状況

- ・ 砂丘の風資料館では、石狩紅葉山 49 号遺跡を会場に 7 月と 10 月に土器作り教室（野焼き）を開催したほか、10 月に紅葉山 49 号遺跡を巡る遺跡ツアーを実施しました。また、市指定文化財となっている旧長野商店、旧白鳥番屋（はまます郷土資料館）の内部公開を引き続き行いました。
- ・ 上記以外の文化財にかかわる情報発信としては、4 月に砂丘の風資料館収蔵資料から、高橋儀兵衛の万博表彰状を中心とした展示を市民図書館を会場に開催したほか、6 月には厚田資料室で厚田出身の作家子母澤寛の自筆原稿を中心にした「子母澤寛と大道書房」展を開催しました。
また、紀伊國屋書店札幌本店において展示「ウミベオグラフィー / 石狩海辺博物学」（10 月 29 ～ 11 月 3 日、来場者約 1,000 人）及びトークイベント「ウミベオロジー / 石狩海辺学」（11 月 3 日、参加者 78 人）を開催し、石狩の海辺の自然誌について、広く市外に情報を発信しました。
- ・ 石狩、厚田、浜益各地域の指定文化財候補を調査しました。
- ・ 文化財保護活動としては、6 月～ 11 月に緊急雇用対策事業を活用し、古地図や古写真の画像データ化を図ったほか、厚田区の古文書（佐藤弁蔵家文書）の整理を行いました。
- ・ 石狩ファイルの刊行については、10 月に 3 項目を追加し、砂丘の風資料館・市民図書館等で配布、ホームページ上で公開しました。

123 石狩のワカサギ
124 石狩の野鳥
125 開拓使石狩缶詰所

- ・ テーマ展、体験講座・野外講座を開催し、石狩の自然や歴史について、実体験や実物を伴った学習機会を提供しました。

○テーマ展（展示）実施状況

タ イ ト ル	開 催 期 間	備 考
貝蛸大漁！アオイガイ大量！	4 月 29 日～ 6 月 26 日	
子母澤寛と大道書房 —石狩市民図書館貴重書コレクションから—	7 月 9 日～ 7 月 31 日	市民図書館でも開催
石狩の遺跡と縄文文化	9 月 7 日～ 10 月 24 日	
資料館のお宝展 2011 / めざめよ！剥製たち	1 月 22 日～ 3 月 27 日	

○体験講座・野外講座の状況

タイトル	開催日	参加者数	内 容
石狩ビーチコーマーズ / 春の漂着物	4月17日	14	石狩浜の漂着物を観察・採集し、起源を考える。
地層と化石	6月18日	23	800 万年前の地層や化石を観察する。
勾玉づくり教室	7月23日	21	古代のアクセサリー勾玉を作る。
縄文土器復元講座	7月30日、8月6日	16	縄文土器を製作する。
化石のレプリカをつくる	8月13日	10	アンモナイトや石狩の化石のレプリカを作る。
フライドチキン骨格標本をつくる	9月3日、10日	7	フライドチキンから部分骨格標本を作る。
石狩ビーチコーマーズ / 秋の漂着物	10月16日	14	石狩浜の漂着物を観察・採集し、起源を考える。
石狩大学博物館部(全3回)	11月12日、11月19日、12月10日	79	石狩の自然や歴史に関する研究成果を紹介する。
石狩の遺跡と世界遺産	12月3日	50	石狩市内の遺跡と世界遺産に関する講演
石狩ビーチコーマーズ / 冬の漂着物	2月26日	10	石狩浜の漂着物を観察・採集し、起源を考える。

- ・ 社会教育関連施設 4 館（市民図書館、砂丘の風資料館、市民館、海浜植物保護センター）で、事業連携と情報の一元化を目的とし、「いしかり館ネットワーク」を構築しました。各館を紹介する「いしかり館めぐり MAP」の発行、連携講座などを実施しました。
- ・ ボランティアについては、イベント活動のほかに標本処理などのメニューの追加を行い、参加者の自主的な活動の支援や、消耗品等の支援を行うことで、郷土への理解と愛着を深めることができる、魅力あるボランティア環境の整備を図りました。
また、各種の講座参加者などに P R を行い、参加者数の増加を図りました。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
いしかり砂丘の風資料館管理運営事業・厚田資料館管理運営事業・はまます郷土資料館管理運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		H20	H22	H23	H26
市内3資料館の延べ入館者数	人	4,374	5,868	5,649	5,000

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 砂丘の風資料館では、今後も紅葉山 4 9 号遺跡を学ぶ機会の提供に努めるほか、石狩市指定文化財旧長野商店及び旧白鳥番屋の公開や資料館に収蔵している資料を使ったテーマ展の開催などにより、文化・自然遺産の活用を図るとともに、調査研究を進め、研究紀要などでその成果を公表します。

- 札幌市（紀伊國屋書店）で実施したイベントには、多くの札幌市民等が来場・参加し、石狩の自然や歴史について、市外にも広く知ってもらうことができました。平成 24 年度も同様のイベントを、違ったテーマで開催できるよう取り組みます。
- 石狩、厚田、浜益各地域の指定文化財候補の調査を進めます。
また、指定文化財候補である、石狩八幡神社から市教委が寄贈を受けた江戸時代の手水鉢については、文化財指定（平成 24 年度）に向けた調査を進めます。
- 平成 23 年 12 月に石狩市文化財保護審議会に「資料の展示・保管について」諮問を行い、はまます郷土資料館については 1 月に中間答申を得ましたが、石狩市全体の資料館体制については、平成 24 年度に継続して審議していただくこととしています。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、市内に 3 つの資料館の整備プランについて前向きな取組を期待したい旨、意見をいただいたところです。

- 資料館の運営状況（入館者数）は、砂丘の風資料館は、ほぼ前年並み、厚田資料室は、リニューアル 2 年目ということもあり約 2 割の減、はまます郷土資料館は、豪雨災害により例年の三分の一しか開館できなかった 22 年度に比べ約 6 割の増加となっています。東日本大震災の後であり全体的に入館者数は伸び悩んでいます。が、今後さらに一層魅力あふれる資料館の運営に取り組みます。
- ふるさとを学ぶ資料の整備については、市内の縄文遺跡に関する資料集の作成のほか、市内の災害に関する資料についても充実を図ります。
- 石狩市郷土研究会は、市内の文化・歴史の調査などを行い、その成果は毎年会誌「いしかり暦」で公表しています。今後も、こうした活動については継続して支援します。
- 砂丘の風資料館では、資料館主催の講座、講演会のほか、いしかり館ネットワークを活用し、ふるさとを学ぶ機会の充実を図ります。
- 博物館講座の開催については、市民カレッジ等による生涯学習講座と連携を深め、学芸員の研究成果を反映した資料館の独白色のあるメニューを提供します。
- 文化・自然遺産の保護活用や資料館の展示、講座の質の向上には、学芸員体制の強化と学芸員個々の専門性の向上が不可欠なことから、調査研究活動を活発にして資質の向上を図るとともに、研究紀要などで研究成果を積極的に公表します。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、学芸員の採用等について前向きな取組を期待したい旨、意見をいただいたところです。

- いしかり館ネットワークについては、平成 24 年度は「親子で学ぶ・楽しむ」をテーマとして、情報発信の一元化と効率的・効果的な連携事業の実施に向け取り組みます。
- ボランティアについては、イベントや資料等の充実が図られることにより、ボランティア参加者のみならず、市民にとっても、ふるさとを学ぶ機会がより充実することから、今後とも、魅力あるボランティア環境の整備を図り、講座参加者等がボランティアとして参加していただけるよう努めます。

平成 22 年度分教育委員会の点検・評価において、外部評価委員会から、講座参加者が資料館等でボランティアとして参加してもらえるような環境づくりについて、意見をいただいたところです。

<報告事項1>

いじめに関する児童生徒調査（文部科学省緊急調査）結果について

1. いじめ把握のためのアンケート調査

(1) アンケート実施児童生徒数

	小 学 校	中 学 校	合 計
4月～6月実施時	3,466人	1,616人	5,082人
4月～8月実施時	3,460人	1,610人	5,070人

(2) 4月からアンケート実施日までに、いじめられたことがあると答えた児童生徒数

	小 学 校	中 学 校	合 計
4月～6月実施時	193人	55人	248人
4月～8月実施時	331人	56人	387人

○学年別内訳

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
6月		39	33	40	41	40	193	32	13	10	55	248
8月	58	69	45	56	49	54	331	31	16	9	56	387

(3) アンケート設問内における「その他」記載内容

- ① 小学校：12件（トイレで押されたり個室に入れられたりした、逃げられる、トイレを覗かれる、責められる、締め出される、しつこくちょっかいをされる、こそこそ話等）
- ② 中学校：1件（目の敵に）

2. いじめ問題への対応状況の調査

※アンケートで、いじめられたことがあると答えた児童生徒ひとり一人から担任等が聞き取り、状況確認して学校内で精査

※アンケート以外に、学級担任等が発見したり、本人からの訴え等について、学校内で精査

(1) いじめの認知件数

	小 学 校	中 学 校	合 計
4月～6月実施時	6件	16件	22件
4月～8月実施時	13件	33件	46件
※6月から8月までは、24件の認知件数			

○学年別内訳

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
6月	0	0	0	0	3	3	6	9	2	5	16	22
8月	0	2	0	1	6	4	13	17	9	7	33	46

○認知されたいじめの態様(重複あり)

態 様 内 容	6 月	8 月
・ 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	1 3	2 9
・ 仲間はずれ、集団による無視をされる	3	4
・ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	6	1 3
・ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	0	0
・ 金品をたかられる	0	0
・ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	0	2
・ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	1	2
・ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	1	2
・ その他	1	4
計	2 5	5 6

(2) 認知されたいじめの現在の状況

	4 月～6 月実施時	4 月～8 月実施時
・ 解 消	1 4 件	3 3 件
・ 一定の解消が図られたが継続支援中	6 件	5 件
・ 解消に向けて取組中	2 件	8 件
計	2 2 件	4 6 件
※ 9 月 2 0 日現在 4 3 件が解消		

3. いじめ問題に対する取組

(1) これまでの取組

- ① 指導の方針（いじめ問題への取組の徹底について）を改訂し、各学校へ周知（8 月 2 1 日）
- ② 教職員向けのセミナー実施（9 月 1 3 日）
- ③ 市内全教職員へ冊子（いじめ予防・対応のポイント等）の配布（8 月 2 7 日）
- ④ 児童生徒がいじめについて考える取組の実施
- ⑤ 外部の意見を聞く機会の実施

(2) これからの取組

- ① 「いじめ問題対策会議」を実施（9 月～1 1 月にかけて 3 回程度）し、実効性のある対策を検討
- ② 保護者に対する啓発活動（市 P 連研究大会での説明）

＜報告事項 2＞

第 57 回（平成 24 年度） 石狩市民文化祭の開催について

- 1 主催 石狩市、石狩市教育委員会、NPO 法人 石狩市文化協会
- 2 主管 石狩市民文化祭実行委員会
- 3 概要 テーマ：「えがお」

(1) 市民発表部門

【展示会場】

日時： 10 月 19 日（金）～21 日（日） 10：00～17：00 （※21 日は 15：00 まで）

場所： 花川南コミュニティセンター

内容： 絵画・写真、書道、文芸（俳句・短歌）、陶芸、手工芸、生け花などの作品展示
手工芸・生け花の体験コーナー、お茶席や手打ちそばの実演、試食コーナー

【53 団体（個人）参加予定】

【舞台会場】

日時： 10 月 20 日（土） 13：30～16：00

21 日（日） 11：00～16：30

場所： 花川北コミュニティセンター

内容： 日本舞踊、伝承芸能（詩吟、詩舞、三味線、琴、雅楽など）、
洋舞洋楽（フラダンス、バレエ、バトントワリング、歌演奏など）
お楽しみ抽選会（両日、演目終了後）

【28 団体（個人）参加予定】

(2) 厚田・浜益会場

【厚田会場】（厚田生涯学習フェスティバル）

日時： 11 月 11 日（日） 9：30～

場所： 厚田総合センター

内容： [舞台]

厚田区小学校音楽のつどい（合唱・器楽演奏など）、サークル発表（和太鼓、
舞踊、オカリナ、紙芝居など）

[展示]

厚田区小・中学生の作品展示（絵画・書道など）、サークル発表（手芸、絵画、
書道など）

【浜益会場】

日時： 11 月 4 日（日）

場所： 浜益コミュニティセンター「きらり」

内容： [舞台] 10：00～

舞踊、カラオケ、浜益小劇場など

[展示] 9：30～

写真、パッチワーク、草木染め、ステンドグラスなど

（浜益デイサービスセンター利用者の作品有り）

※「茶道愛好会」によるお茶席コーナー、「浜益青年会」による軽食コーナー

(3) クリスマスコンサート 2012 ※協賛：石狩ライオンズクラブ

日時 : 12月15日(土) 13:00～15:30(予定)

場所 : 花川北コミュニティセンター

出演予定団体 : 石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団

南線小学校リコーダークラブ

花川中学校吹奏楽部

花川南中学校吹奏楽部

花川北中学校吹奏楽部

樽川中学校吹奏楽部

石狩南高等学校吹奏楽部

石狩翔陽高等学校吹奏楽局

※吹奏楽部による合同演奏も予定

(4) 共催事業

【第25回いしかり菊花展】

日時 : 11月1日(木)～3日(土・祝) 9:30～17:00

場所 : 花川北コミュニティセンター

内容 : 大菊・小菊の展示

(5) 協賛事業

【第15回オータムコンサート】 ※主催：石狩市音楽家・音楽団体協議会

日時 : 10月6日(土) 14:00～ ※入場料500円(小学生以下無料)

場所 : 花川北コミュニティセンター

出演団体 : 石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団

石狩混声合唱団

コル・ソナーレ

女声コーラス「いしかりエコー」

女声合唱団アルバ・コラーレ

当別レディス・ハーモニー

シルベールコール(銀の鈴)

<報告事項3>

第13回（平成24年度）石狩市民図書館まつりの開催について

- (1) 趣 旨 図書館ボランティアや関係団体との協働により、読書活動の推進を図る。
- (2) テーマ 「どうぶつ」 ～みんなでいこうよ 図書館どうぶつえん～
- (3) 主催 石狩市民図書館
企画・運営 図書館まつり運営委員会
- (4) 開催期日 平成24年10月27日（土）～ 10月28日（日） 10時～17時
- (5) 会 場 石狩市民図書館本館
- (6) 主な内容
- 10月27日（土）
- ・ 調べる学習コンクール～表彰式～
 - ・ マジックショー【北大奇術研究会】
 - ・ 講演会「円山動物園の見どころ」【札幌市円山動物園飼育員】
 - ・ DVD上映会【フロアボランティア】
 - ・ 朗読とピアノ【駒井秀子さんと谷百合子さん】
 - ・ おはなし会【ボランティアびっくりばこ、サラ&ラルエケ&リア&ローラ（ALT：英語指導助手）、石狩市文庫連絡会】
- 10月28日（日）
- ・ 人形劇【やまちゃん はまちゃん おはなしのはこ】
 - ・ マジックショーと沖縄の三線演奏【マジック：塚田崇さん、三線：磯木一範さん】
 - ・ あんどうおばさんと日本語であそぼ【元HBCアナウンサー安藤千鶴子さん】
 - ・ トーンチャイム演奏【藤女子大】
 - ・ おはなし会【厚田童話を読む会・お日さまの会、藤女子大学、子っ子の会】
- 両日開催
- ・ むかしあそび【伝承あそびボランティアおてだま】
 - ・ 布の絵本とおもちゃであそぼう！【ボランティアサークル布の絵本にじ】
 - ・ 乳幼児休憩室【ブックスタートボランティア】
 - ・ 展示「安政五年の石狩改革以降の不振が続く石狩場所の再興を願う明治初期の文書を読む」【村山家文書を読む会】
 - ・ 電子書籍体験コーナー（閲覧室内）
 - ・ 本の特集「みんなでいこうよ 図書館^{としよかん}どうぶつえん」（閲覧室内）
 - ・ 図書館クイズ・スタンプラリー
 - ・ 本のお医者さん・名取市図書館修理ボランティア支援に関する展示【修理ボランティア】
 - ・ 軽食コーナー

＜報告事項４＞

通学路の交通安全の確保に係る緊急合同点検の結果について

１．目 的

本年４月以降、登下校中の児童等の列に自動車が突入し、死傷者が発生するなど、痛ましい事故が相次いで発生している状況を踏まえ、通学路における交通安全を一層確実に確保するため、文部科学省、国土交通省及び警察庁の３省庁が連携して対応策を検討し、「通学路における緊急合同点検等実施要領」に基づき、関係機関の連携による通学路の安全点検を行うものである。

２．実施対象

全ての公立小学校及び公立特別支援学校小学部の通学路。

※石狩市では、中学校の通学路も対象とした。

３．実施内容及び今後の予定

（１）学校による危険箇所の抽出

各学校が、保護者等の協力を得て通学路の点検を実施した結果、小学校９校、中学校４校から、交通安全の観点から危険があると認められる３０箇所が抽出された。

（２）合同安全点検の実施

① 実施日 ７月３１日、８月１日、７日、２３日（４日間）

② 参加者 学校、保護者、地域住民、道路管理者（北海道開発局札幌道路事務所・滝川道路事務所・北海道建設管理部当別出張所・市建設水道部管理課）、札幌方面北警察署及び市教育委員会

③ 対策必要箇所について

３０箇所を点検し、下表のとおり２８箇所を対策必要箇所と判断した。

	花川	本町・八幡	厚田	浜益	計
歩道の整備	1	3	1	0	5
横断歩道の設置	11	0	1	1	13
信号機の設置	7	0	1	1	9
標識の設置	2	0	0	0	2
速度規制	1	1	0	0	2
駐車規制	3	0	0	0	3
カーブミラー設置	0	0	0	1	1
要望件数計	25	4	3	3	35
対策必要箇所数	19	4	2	3	28

※１箇所について２以上の要望件数がある場合もある。

（３）今後の予定

具体的な対策案については、点検を実施した関係者が協議し、最終的な対策の方向性を１１月末までに決定する。